

**2022年度
大学院社会学研究科
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覧

【発行日：2022/5/2】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【X6000】	社会学基礎演習 1 [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1
【X6001】	社会学基礎演習 2 [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	2
【X6002】	社会学基礎演習 3 [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	2
【X6003】	理論社会学 2 (身体社会学) [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	3
【X6004】	理論社会学 3 (ケアと支援の相互行為論的分析) [三井 さよ] 春学期授業/Spring	3
【X6005】	理論社会学 4 (ベーシックインカム研究) [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	4
【X6006】	理論社会学基礎 1 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	5
【X6007】	理論社会学基礎 2 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	6
【X6008】	社会学特殊研究 1 (国際移住社会学) [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	7
【X6009】	社会学特殊研究 2 (若者問題の現状と課題) [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	8
【X6010】	社会学特殊研究 3 (変化/不変化社会学) [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	9
【X6011】	社会学特殊研究 3 (家族社会学) [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	10
【X6012】	社会学特殊研究 4 (国際社会学) [惠羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	10
【X6014】	社会学特殊研究 5 [仁平 典宏] 春学期集中/Intensive(Spring)	11
【X6015】	社会学特殊研究 6 [水島 久光] 春学期集中/Intensive(Spring)	12
【X6016】	統計分析法 [多喜 弘文] 秋学期授業/Fall	13
【X6017】	調査研究法 [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	14
【X6018】	質的資料分析法 [田嶋 淳子] 春学期授業/Spring	15
【X6019】	メディア社会学基礎演習 1 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	16
【X6020】	メディア社会学基礎演習 2 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	17
【X6021】	メディア社会学基礎演習 3 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	18
【X6022】	メディア理論 1 (メディアの歴史と思想) [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	19
【X6023】	メディア理論 2 (メディアの哲学と思想) [李 舜志] 春学期授業/Spring	20
【X6024】	メディア理論 4 [北原 利行] 秋学期授業/Fall	21
【X6025】	メディア特殊研究 1 (ブランド広告の意味研究) [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	23
【X6026】	メディア特殊研究 4 (ソーシャルメディア論) [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	24
【X6027】	メディア社会学特殊研究 1 (消費者行動論) [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	24
【X6028】	取材文章実習 [高瀬 文人] 秋学期授業/Fall	25
【X6029】	調査報道実習 1 [山口 仁] 春学期授業/Spring	26
【X6030】	調査報道実習 2 [川島 浩誉] 春学期集中/Intensive(Spring)	27
【X6031】	学際研究 1 (人間形成と social pedagogy の視座) [平塚 眞樹] 秋学期授業/Fall	29
【X6033】	学際研究 3 (歴史学の方法とその歴史・現在) [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	30
【X6034】	学際研究 5 (場の質的心理学) [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	31
【X6040】	外国書講読 1 (英語) [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	32
【X6041】	外国書講読 2 (英語) [樋口 明彦] 秋学期授業/Fall	33
【X6043】	外国書講読 2 (英語) [吉田 公記] 秋学期授業/Fall	34
【X6044】	外国書講読 1 (仏語) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	35
【X6045】	外国書講読 2 (仏語) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	36
【X6046】	外国書講読 1 (独語) [濱中 春] 春学期授業/Spring	37
【X6047】	外国書講読 2 (独語) [濱中 春] 秋学期授業/Fall	38
【X6048】	外国書講読 1 (中国語) [綿貫 哲郎] 春学期授業/Spring	39
【X6049】	外国書講読 2 (中国語) [綿貫 哲郎] 秋学期授業/Fall	40
【X6050】	社会学原典講読 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	41
【X6052】	論文指導 1 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	41
【X6053】	論文指導 1 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	42
【X6054】	論文指導 1 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	42
【X6055】	論文指導 1 [多喜 弘文] 年間授業/Yearly	43
【X6072】	論文指導 2 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	44
【X6073】	論文指導 2 [鈴木 智之] 年間授業/Yearly	45
【X6074】	論文指導 2 [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	45
【X6075】	論文指導 2 [小林 直毅] 年間授業/Yearly	46
【X6076】	論文指導 2 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	46
【X6077】	論文指導 2 [稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	47

【X6078】	論文指導 2 [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	48
【X6301】	博士論文指導 I A [岡野内 正] 春学期授業/Spring	48
【X6302】	博士論文指導 I A [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	49
【X6306】	博士論文指導 I B [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	49
【X6307】	博士論文指導 I B [惠羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	50
【X6321】	博士論文指導 III A [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	50
【X6322】	博士論文指導 III A [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	51
【X6323】	博士論文指導 III A [岡野内 正] 春学期授業/Spring	51
【X6324】	博士論文指導 III A [徳安 彰] 春学期授業/Spring	52
【X6325】	博士論文指導 III A [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	52
【X6326】	博士論文指導 III A [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	53
【X6331】	博士論文指導 III B [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	53
【X6332】	博士論文指導 III B [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	54
【X6333】	博士論文指導 III B [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	54
【X6334】	博士論文指導 III B [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	55
【X6335】	博士論文指導 III B [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	55
【X6336】	博士論文指導 III B [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	56
【X6340】	社会学総合演習 A [社会学研究科教員] 春学期集中/Intensive(Spring)	56
【X6341】	社会学総合演習 B [社会学研究科教員] 秋学期集中/Intensive(Fall)	57
【X6342】	社会学研究 1 [ジョナサン・ブラウン] 秋学期授業/Fall	57
【X6343】	社会学研究 2 [仁平 典宏] 春学期集中/Intensive(Spring)	59
【X6344】	社会学研究 3 [水島 久光] 春学期集中/Intensive(Spring)	60
【X6345】	社会調査法 1 [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	61
【X6346】	社会調査法 2 [多喜 弘文] 秋学期授業/Fall	62
【X6347】	社会調査法 3 [田嶋 淳子] 春学期集中/Intensive(Spring)	63
【X6348】	社会学原典研究 1 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	64

SOC600E1 - 1100

社会学基礎演習 1

鈴木 智道

備考（履修条件等）：「社会学基礎演習 3」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程1年生を対象に、大学院での研究の進め方、修士論文のテーマ設定、論文の構成の仕方を修得し、各自が修士課程における研究の計画・論文の構想を立てるまでを支援する。

【到達目標】

各自の問題関心と論文テーマを確定し、研究の方法を模索すると同時に具体的な研究計画を立てるところまでを課題とする。「研究」とは何か、「論文を書く」とはどのようなことか、についての基本的な考え方を理解し、春学期末までに、修士論文のテーマ設定、ならびに研究対象と研究方法の選択を行えるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。
なお、本演習は「社会学基礎演習 3」（修士課程2年対象）と合同で開講する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	修士課程1年による報告	問題関心報告
第3回	修士課程2年による報告	修論構想報告 ①
第4回	修士課程2年による報告	修論構想報告 ②
第5回	修士課程2年による報告	修論構想報告 ③
第6回	修士課程1年による報告	研究計画報告 ①
第7回	修士課程1年による報告	研究計画報告 ②
第8回	修士課程1年による報告	研究計画報告 ③
第9回	修士課程2年による報告	修論中間報告 ①
第10回	修士課程2年による報告	修論中間報告 ②
第11回	修士課程2年による報告	修論中間報告 ③
第12回	修士課程1年による報告	修論構想報告 ①
第13回	修士課程1年による報告	修論構想報告 ②
第14回	修士課程1年による報告	修論構想報告 ③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学
<研究テーマ>家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to make the research theme clear and decide on the research plan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC600E1 - 1101

社会学基礎演習2

鈴木 智道

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程1年生を対象に、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に照準化して、研究デザインの構築をめぐす。あわせて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	論文の主題と方法①	過去の論文に学ぶ①
第3回	論文の主題と方法②	過去の論文に学ぶ②
第4回	論文の主題と方法③	過去の論文に学ぶ③
第5回	論文の主題と方法④	過去の論文に学ぶ④
第6回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第7回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第8回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第9回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第10回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第11回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第12回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第13回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第14回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（30%）、毎回の議論への参加（30%）、レポート（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ>家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students design their research plans for writing a master thesis. Students are expected to make the research question clear and write an introductory chapter.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on class reports (30%), in-class contribution (30%), and the quality of the final report (40%).

SOC600E1 - 1102

社会学基礎演習3

鈴木 智道

備考（履修条件等）：「社会学基礎演習1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程2年生を対象に、修士論文の構想、研究の進め方、完成までの筋道の立て方を、受講者全員の議論を通じて考えていく。

【到達目標】

春学期末までに、修士論文の章立て、ならびに最終的な研究計画を確定することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

なお、本演習は「社会学基礎演習1」（修士課程1年対象）と合同で開講する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	修士課程1年による報告	問題関心報告
第3回	修士課程2年による報告	修論構想報告
第4回	修士課程2年による報告	修論構想報告
第5回	修士課程2年による報告	修論構想報告
第6回	修士課程1年による報告	研究計画報告
第7回	修士課程1年による報告	研究計画報告
第8回	修士課程1年による報告	研究計画報告
第9回	修士課程2年による報告	修論中間報告
第10回	修士課程2年による報告	修論中間報告
第11回	修士課程2年による報告	修論中間報告
第12回	修士課程1年による報告	修論構想報告
第13回	修士課程1年による報告	修論構想報告
第14回	修士課程1年による報告	修論構想報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ>家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to design chapters of the master thesis according to the research plan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC500E1 - 1200

理論社会学2（身体の社会学）

鈴木 智之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度は、身体の社会学に関する研究書を講読する。特に、身体の変形や加工が社会的文脈においてどのような意味をもつのかを考える。

【到達目標】

現代社会において身体の変形や加工がもつ意味を社会的に分析する視点の獲得を目指す。英語圏のテキストをゆっくり講読し、それにもとづいて議論を重ねる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、英文のテキストを講読する。担当者による内容の報告とそれに基づくディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の狙いの説明
第2回	テキストの講読1	第1回 Introduction
第3回	テキストの講読2	第2回 Chapter1 前半
第4回	テキストの講読3	第3回 Chapter1 後半
第5回	テキストの講読4	第4回 Chapter2 前半
第6回	テキストの講読5	第5回 Chapter2 後半
第7回	テキストの講読6	第6回 Chapter3 前半
第8回	テキストの講読7	第7回 Chapter3 後半
第9回	テキストの講読8	第8回 Chapter4 前半
第10回	テキストの講読9	第9回 Chapter4 後半
第11回	テキストの講読10	第10回 Chapter5 前半
第12回	テキストの講読11	第11回 Chapter5 後半
第13回	テキストの講読12	第12回 Conclusion
第14回	まとめ	講読内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講読範囲について、各自が予習し、内容を理解しておくこと。報告担当者は、担当箇所のレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

Victoria Pitts, In the Flesh, The cultural politics of body modification, Palgrave Macmillan, 2003. を予定している。

【参考書】

特に用いない

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加、報告の内容などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

平易ではないテキストですが、丁寧に、ゆっくり読んでいきたいと思えます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論社会学、文化社会学
<研究テーマ> 語りの社会学
<主要研究業績> 『顔の剥奪』『郊外の記憶』青弓社

【Outline (in English)】

We read some texts on the sociology of body to inquire the meaning of body modification and transfiguration.

Before each class meeting, students are expected to read texts and to take part in the discussion.

Grading will be decided on the total contribution in class.

SOC500E1 - 1201

理論社会学3（ケアと支援の相互行為論的分析）

三井 さよ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的には、ケアや支援を、より広い社会的文脈の中で捉え返すと同時に、個々人の臨床的な視点にも立つためには、どのような態度がありうるかを学ぶ。それを通して、個人的な事柄と社会的な文脈とを結びつける社会的な思考法を深めることを目的とする。

【到達目標】

「個人的なこと」とされがちな事柄を、「社会的なこと」として位置づけることの意義と意味について学ぶ。同時に、「社会的なこと」として切り取ってしまうことの暴力性と限界についても学ぶ。さらにはそれを、自身の社会的な考察に活かせるようになることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、ケアや支援の現場で生じるさまざまな課題について、より広い社会的文脈との接点を見つけながら位置づけなおす方法を考える。主に文献講読と、受講者による自由報告を行う。その際、自由なディスカッションを重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	ケアや支援と社会的文脈	教員による解説
3	自由報告①	各自の問題関心に応じて報告①
4	自由報告②	各自の問題関心に応じて報告②
5	自由報告③	各自の問題関心に応じて報告③
6	文献講読①	ケアと暴力①
7	文献講読②	ケアと暴力②
8	文献講読③	ケアと安全①
9	文献講読④	ケアと安全②
10	文献講読⑤	安全と暴力①
11	文献講読⑥	安全と暴力②
12	自由報告④	各自の問題関心に応じて報告④
13	自由報告⑤	各自の問題関心に応じて報告⑤
14	総合討論	授業内容を踏まえた総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献を講読する。また、各自の研究内容への応用についてともに考えるため、各自の研究内容についての報告も求める。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(50%)、議論への積極的貢献(50%)などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

臨床社会学

【担当教員の研究テーマ】

支援・ケアについての相互行為論的分析

【担当教員の主要業績】

2004『ケアの社会学：臨床現場との対話』勁草書房
2010『看護とケア：心揺り動かされる仕事とは』角川学芸出版
2018『はじめてのケア論』有斐閣
2020『支援のてまえて』生活書院（児玉雄大との共編著）
2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the way of sociological thinking through understanding the social contexts around caring and supporting. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 1203

理論社会学4（ベーシックインカム研究）

岡野内 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ベーシックインカム研究の前提となる社会理論として、ユルゲン・ハーバーマスの社会理論に関する整理の概要をつかむ。この授業では、『コミュニケーション的行為の理論』第二部の「機能主義的理性批判」における第二中間考察「システムと生活世界」および最終考察「パーソンズからウェーバーを超えてマルクスへ」をゼミ形式で精読しながら岡野内『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』と関連づけて議論することで、その理解を深めていく。

【到達目標】

テキストの基本的な内容を理解し、報告、討論を通じて、批判的な読解力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ZOOM を利用して、オンラインで実施する。いわゆる読書会形式で、担当を決めてテキストを読み、要約と疑問点、論点を出し合い、議論しつつ解決していきます。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の箇所について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④議論したい論点、を書き込んでいきます。

課題などへのフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての打ち合わせ。 この授業テーマに関する自由討論による授業に取り組むうえでの問題意識の明確化。
第2回	生活世界の世界	第二部第6章第1節前半の内容に関する報告と討論。
第3回	理解社会学の解釈学的概念論について	テーマに関する報告と討論。
第4回	社会文化的な生活世界であり、自己制御的システムでもある部族社会	テーマに関する報告と討論。
第5回	システムと生活世界との分断	テーマに関する報告と討論。
第6回	物象化テーゼの再定式化と了解形式	テーマに関する報告と討論。
第7回	ウェーバーの官僚制化	テーマに関する報告と討論。
第8回	テーゼ、資本主義成立論 ウェーバーの同時代診断の再検討と生活世界の植民地化テーゼ	テーマに関する報告と討論。
第9回	マルクス価値論と物象化論	テーマに関する報告と討論。
第10回	システムと生活世界との交換関係モデル	テーマに関する報告と討論。
第11回	介入国家における法制化問題	テーマに関する報告と討論。
第12回	初期批判理論のテーマ群について	テーマに関する報告と討論。
第13回	コミュニケーション的行為の理論との結節点	テーマに関する報告と討論。
第14回	合理性の理論と歴史的な文脈の問題	テーマに関する報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの掲示板に、毎回の授業についての書き込みをする必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハーバーマス著『コミュニケーション的行為の理論 下』未来社、1987年。（ただし、有名な誤訳箇所も含まれているので、適宜、ドイツ語版や英語版などを参照するといいかもかもしれません。）

【参考書】

岡野内 正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程——批判開発学/SDGsとの対話』法律文化社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加と、毎回の授業についての書き込みの4つの論点について、25点ずつ合計100点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板を用いて、公開で議論を進めるやり方が役に立ったという意見に基づいて、引き続き進めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会理論、国際政治経済学

<研究テーマ>グローバル・ベーシック・インカム研究

<主要研究業績>岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年）など。

【Outline (in English)】

A seminar class for students who wish to understand the social theory of Jürgen Habermas. In this advanced class, two chapters of "The Theory of Communicative Action" Vol. II, i.s. "VI Intermediate Reflections: System and Lifeworld," and "Concluding Reflections: From Parsons via Weber to Marx," will be read and discussed with attention to T.Okanouchi's "Perspectives to Global Basic Income Scheme" (Houritsu Bunka-Sha: Kyoto, 2021).

SOC500E1 - 1300

理論社会学基礎 1

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史 I」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院で研究を進めるための素養として古典的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念をしり、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインの講義形式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したりリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント／スペンサー	三段階の法則、社会進化、軍事型社会／産業型社会
4	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
6	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
7	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
8	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
9	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
10	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
11	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
12	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
14	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社
 ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の子習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
 <研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
 <主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%); In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1301

理論社会学基礎2

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅱ」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院での研究を進めるための基本的素養として、社会学の現代的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念をしり、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	Iとme、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー/ルックマン	社会的世界の複数性、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
 <研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
 <主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%); In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1205

社会学特殊研究 1 (国際移住の社会学)

田嶋 淳子

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化の中での国際移住に関わる諸問題を考える

【到達目標】

国際移住の現状を把握し、その問題について、日本社会あるいは東アジア諸地域を対象に社会調査を実施することが可能となること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を以下の項目について3~4回程度で学んでいく。

- ①国際移住研究の現状と課題
- ②国際移住研究に関する概念の検討
- ③国際移住研究の方法
- ④日本における国際移住研究の現状と課題

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1講	国際移住研究の現在 (1)	本講義の進め方と取り上げる文献や資料についての説明。
第2講	国際移住研究の現在 (2)	Castles & Miller,2011 を読み、1990年代までの国際移住研究の現状を学ぶ。
第3講	国際移住研究の現在 (3)	Castles らの研究から 2000 年代以降の研究の展開を学ぶ。
第4講	国際移住研究の課題	国際移住研究の現状を踏まえ、その後の理論的展開について、いくつかの論文を参照する。
第5講	国際移住研究における概念の検討 (1)	アメリカにおける国際移住研究の中の transnationalism (Smith & Guarnizo,1998)
第6講	国際移住研究における概念の検討 (2)	ヨーロッパにおける国際移住研究の中の ransnationalism,(Faist,2004)
第7講	国際移住研究における概念の検討 (3)	Diaspora 概念の検討
第8講	国際移住研究の方法 (1)	事例研究1：日本における中国系移住者 (田嶋,2010)
第9講	国際移住研究の方法 (2)	事例研究2：日本における韓国系移住者 (田嶋,2010)
第10講	国際移住研究の方法 (3)	事例研究3：東アジアにおける中国系移住者 (田嶋,2010)
第11講	日本における国際移住研究の現状 (1)	フィールドワーク (実際にフィールドに出て、課題をこなす)
第12講	日本における国際移住研究の現状 (2)	これまでに学んだことと、フィールドでの知見をあわせて、各自がレポートを作成し、報告する。
第13講	国際移住研究 (調査研究事例)	アメリカにおける中国系移住者研究の現在 (Zhou,2009)
第14講	国際移住研究 (調査研究事例)	韓国系移住者研究の現在 (高、2007)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回までに指定された文献の講読と関連論文の講読

【テキスト (教科書)】

1. カースルズ,S.&ミラー, M.J.2011『国際移民の時代 (第4版)』名古屋大学出版会。
1. 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学』明石書店。その他は講義の中で指示する。

【参考書】

- 1.Hein de Haas,S.Castles & M.J.Miller,2020 The Age of Migration(6th edition),Red Globe Press,London.
- 2.M.P.Smith &L.E.Guarnizo (eds.),1998, *Transnationalism From Below (Comparative Urban & Community Research Vol.6)* New Brunswick, New Jersey,Transaction Publishers.
- 3.T.Faist ed.2004 *Transnational Social spaces :Agents, Networks and Institutions* ,Aldershot,Ashgate.
- 4.Zhou,M.2009*The Contemporary Chinese American*,Temple University Press.
5. 高全恵星監修・柏崎千佳子訳、2007『ディアスポラとしてのコリアン』新幹社。
6. 栗田和明編 2018『移民と移住』昭和堂。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表 (40%)とコメント20%、レポート課題40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
 <研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
 <主要研究業績>

1. 『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
2. 「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂、2018年
3. 「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第13号、66-78ページ、2021年。

【Outline (in English)】

Course Outline

Graduate school students will study various issues of international migration in the age of globalization

Learning Objectives

Students will understand the realities of international migration and conduct surveys concerning Japan and East Asia.

Learning Activities Outside Class

Students will do assigned readings and read related papers before each class. Standard duration will be two hours.

Assessment

Class presentations (40%), comments on presentations given by other students (20%) and reports (40%)

SOC500E1 - 1206

社会学特殊研究2（若者問題の現状と課題）

樋口 明彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代半ば以降、雇用の不安定化は、日本の若者の社会的地位に大きな影響を及ぼすことになった。その結果、教育・雇用・社会保障を視野に入れた若者政策の整備が本格的に進展するようになる。本科目では、日本語文献を丹念に読みながら、若者政策の現状と課題を検討する。

【到達目標】

①テキストの検討を通じて、日本の若者政策に関する中程度の知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習。参加者の関心に合わせて、教科書から9本のテキストを選び、学生による報告およびディスカッションを行う。3回の購読ごとに、講読論文のテーマに基づいて、それぞれの学生が海外の事例報告を行い、国際比較ワークショップを行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	日本の若者政策について
2	第1論文購読	学生報告およびディスカッション
3	第2論文購読	学生報告およびディスカッション
4	第3論文購読	学生報告およびディスカッション
5	第1～第3論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
6	第4論文購読	学生報告およびディスカッション
7	第5論文購読	学生報告およびディスカッション
8	第6論文購読	学生報告およびディスカッション
9	第4～第6論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
10	第7論文購読	学生報告およびディスカッション
11	第8論文購読	学生報告およびディスカッション
12	第9論文購読	学生報告およびディスカッション
13	第7～第9論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
14	まとめ	若者政策の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献購読、学生報告のレジュメ作成、国際比較ワークショップのレジュメ作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

乾彰夫・本田由紀・中村高康編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

※テキストは、原則配布する予定

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

①報告（50%）

②ディスカッション（50%）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす。

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要研究業績】

樋口明彦、2021、「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障：横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店。

樋口明彦、2017、「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline (in English)】

This lecture is about the youth policy in Japan. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC500E1 - 1207

社会学特殊研究3 (変化／不変化の社会学)

堀川 三郎

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学はその創始から、社会の変化を「A から B へ」「〇〇化」という図式で記述してきた。例えば「ゲマインシャフトからゲゼルシャフトへ」(テニエス)や「脱呪術化」(ウェーバー)が有名である。こうした図式的理解の根幹は、「変化の把握」である。「変化」を「変動」と言い換えてもよいが、いずれにせよここで重要なことは、こうした把握方法では変化することは当然のことと見なされ、それがどこへ向かうのかその見通しを立てることこそが主要な関心であった、ということだ。

しかし、この授業では変化することを自明視せず、「変化しないこと」へと視野を拡大していこうと思う。換言すれば、社会学の知的伝統に則って「変化をどのようにとらえるか」を検討するのみならず、その変化の仕方や変化の制御過程、さらには「変化しないもの」をも把握しようと試みる。具体的には、いくつかの文献を「変化／不変化」という観点から精読して議論の土台を共有してから、受講者それぞれの研究テーマ・素材を持ち寄り、変化／不変化をいかに語りうるのか、方法的拡張を意識しながら検討を加えていくことにする。人数にもよるが、持ち寄る素材は、受講者の修士論文、博士論文、学会報告、投稿論文などの草稿で構わない。それらの完成・洗練化に役立つような授業にしていくつもりである。担当教員の専門から、都市や地域、環境に関心を寄せる院生の参加を期待しているが、それ以外の領域でも受講を歓迎する。自らの論文完成のために、本授業をおおいに「利用」して欲しい。

【到達目標】

自らの研究テーマを、「A から B へ」「〇〇化」という図式で記述し、具体的なデータに基づいて議論を展開できる能力の涵養を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの講読、院生による研究報告、全員での討論、などで構成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業への導入
第2回	文献講読 [1]	テーマ探究のための文献講読
第3回	文献講読 [2]	テーマ探究のための文献講読
第4回	文献講読 [3]	テーマ探究のための文献講読
第5回	文献講読 [4]	テーマ探究のための文献講読
第6回	文献講読 [5]	テーマ探究のための文献講読
第7回	文献講読 [6]	テーマ探究のための文献講読
第8回	文献講読 [7]	テーマ探究のための文献講読
第9回	受講者のテーマ報告および討論 [1]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第10回	受講者のテーマ報告および討論 [2]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第11回	受講者のテーマ報告および討論 [3]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第12回	受講者のテーマ報告および討論 [4]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第13回	受講者のテーマ報告および討論 [5]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第14回	まとめ	まとめと総括討論

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に文献を読み、レジュメを作成すること

【テキスト(教科書)】

履修者と相談のうえ、決定する。

【参考書】

講読文献は、受講者と相談したうえで決定するが、下記は候補文献の一部である。これに縛られず、履修者の関心領域とすり合わせながらフレキシブルに対応する予定である：

- [1] 堀川三郎 (2018) 『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会的分析』東京大学出版会。
- [2] 森久聡 (2016) 『<瀬の浦>の歴史保存とまちづくり：環境と記憶のローカル・ポリテクス』新曜社。
- [3] Page, Max (2016) *Why Preservation Matters* (Why X Matters Series). New Heaven, CT: Yale University Press.
- [4] 水村美苗 (2008) 『増補 日本語が亡びるとき：英語の世紀の中で』(ちくま文庫み-25-4) 筑摩書房。
- [5] 藤田弘夫 (2003) 『都市と文明の比較社会学：環境・リスク・公共性』東京大学出版会。

[6] Holleran, Michael (1998) *Boston's "Changeful Times": Origins of Preservation and Planning in America* (Creating the North American Landscape). Baltimore, MD: Johns Hopkins University Press.

[7] Barthel, Diane (1996) *Historic Preservation: Collective Memory and Historical Identity*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

[8] Horikawa, Saburo (2021) *Why Place Matters: A Sociological Study of the Historic Preservation Movement in Otaru, Japan, 1965 - 2017*. Cham, Switzerland: Springer.

【成績評価の方法と基準】

討論での貢献度で評価する(100%)。人数によってはレポートを課すが、その場合の成績評価は、討論への貢献 50%、レポート評価 50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

定期的に院生の意見を聞きながら、運営する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学、日米比較社会論

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会的分析』(東京大学出版会、2018年)、*Why Place Matters* (Springer, 2021) など

【Outline (in English)】

Since its founding, sociology has described social change through formulaic expressions such as “from A to B” or in terms of “-cations” and “-zations.” Ferdinand Tönnies’ “from Gemeinschaft to Gesellschaft” and Max Weber’s “Disenchantment (Entzauberung)” are two well-known examples. At the heart of this formulaic understanding is understanding change. The words “change” and “transformation” may be interchangeable, but in any case, what is important here is that this method of understanding considers change as a natural process, and sociology’s major concern was to create insight as to where that change might lead.

In this course, however, we do not accept change as inevitable and will expand our horizons to that of “unchanging,” or not changing. To put it differently, not only do we examine how change should be interpreted in accordance with the intellectual traditions of sociology, but we also attempt to understand the ways in which changes occur, the control processes involved, and finally, what we refer to as “un/change.” Specifically, once we conduct a close reading of the literature from the perspective of un/change for a shared foundation for argumentation, students will bring materials for their research topics to class, where we will investigate how they can be discussed in terms of un/change, ever conscious of methodological expansion during our investigations. While it depends on the number of students, materials for research can be drafts of students’ master’s theses, doctoral dissertations, academic conference presentations, or articles for publishing. This course is intended to help students complete and refine their work. The instructor’s expertise lies in cities, communities, and the environment and expects graduate students with similar interests to join but welcomes students from other areas as well. The instructor wishes that students “use” this class to complete their theses and dissertations. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Overall grade will be decided based on one’s contribution in class discussion.

SOC500E1 - 1207

社会学特殊研究3 (家族社会学)

菊澤 佐江子

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今年度は、家族をめぐる諸現象に関連する重要な社会的文脈の一つである福祉国家のあり方に着目し、「福祉レジーム」(Esping-Andersen)の視点から、近年の家族をめぐる諸現象と福祉国家のあり方との関連を検討する。

【到達目標】

「福祉レジーム」という概念を理解する

近年の家族をめぐる諸現象と福祉国家のあり方との関連について考察を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト(受講者との相談により変更の可能性あり)と関連文献(受講者との相談により後日決定)の輪読を行う。毎回、担当者が指定の文献等についてレジュメを用いて報告を行い、全員で議論する。課題等へのフィードバックは各回の授業内で行う。授業計画は概ね以下を予定している(ただし、授業の展開等によって、若干変更の可能性あり)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明
第2回	講読1	福祉レジームとは
第3回	講読2	テキストの講読(序章)
第4回	講読3	テキストの講読(1章)
第5回	講読4	テキストの講読(2章)
第6回	講読5	テキストの講読(3章)
第7回	講読6	テキストの講読(4章)
第8回	講読7	テキストの講読(5章)
第9回	講読8	関連文献の講読(1)
第10回	講読9	関連文献の講読(2)
第11回	講読10	関連文献の講読(3)
第12回	講読11	関連文献の講読(4)
第13回	講読12	関連文献の講読(5)
第14回	レポート提出	レポート内容の報告

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講者は毎回必ず、事前に指定された文献を読み、読書メモを作成したうえで参加する。報告者は担当箇所について事前に論点を整理し、レジュメを準備して報告にのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

イエスタ・エスピング＝アンデルセン、2011、『平等と効率の福祉革命』(岩波書店)および関連文献

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(報告、議論への貢献等)50%、期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムやZoomを使用する。

【その他の重要事項】

初回授業時に、各回の報告担当者等を決めるため、履修予定者は、必ず初回授業に出席すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>家族社会学、計量社会学

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students to understand contemporary family issues through the lens of welfare regime by Esping-Andersen. At the end of the course, students are expected to understand the concept of welfare regime and relationships between contemporary family issues and welfare states. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In-class contribution: 50%, Term paper: 50%.

SOC500E1 - 1208

社会学特殊研究4 (国際社会学)

惠羅 さとみ

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業・労働、グローバル化と人の越境的な移動などに関する文献を読み、今日の研究課題や方法について検討する。

【到達目標】

既存の労使関係が前提とする国民国家の枠組みを相対化し、グローバル化と相互依存関係、越境的移動の拡大を踏まえた産業・労働研究のあり方について考える視点を持つこと。またそれぞれの研究テーマに役立てること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン(zoom)で実施する。

文献講読と院生の研究報告および討論などで実施する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明。講読文献および担当などを相談。
第2回	文献講読1	テーマに即した文献の講読と討論
第3回	文献講読2	テーマに即した文献の講読と討論
第4回	文献講読3	テーマに即した文献の講読と討論
第5回	文献講読4	テーマに即した文献の講読と討論
第6回	文献講読5	テーマに即した文献の講読と討論
第7回	文献講読6	テーマに即した文献の講読と討論
第8回	文献講読7	テーマに即した文献の講読と討論
第9回	文献講読8	テーマに即した文献の講読と討論
第10回	受講者による報告1	受講者の研究報告と討論1
第11回	受講者による報告2	受講者の研究報告と討論2
第12回	受講者による報告3	受講者の研究報告と討論3
第13回	受講者による報告・討論	受講生の研究報告と討論4
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

履修者と相談のうえ決定する。

【参考書】

講読文献の候補として以下のものなど、ただしこれらに限定せず履修者の関心と相談して決める。
・小井土彰宏(2017)『移民受入の国際社会学—選別メカニズムの比較分析』名古屋大学出版会
・伊藤るり(2020)『家事労働の国際社会学—ディーセント・ワークを求めて』人文書院
・明石純一(2020)『人の国際移動は管理されるのか—移民をめぐる秩序形成とガバナンス構築』ミネルヴァ書房
・佐藤忍(2021)『日本の外国人労働者受け入れ政策—人材育成指向型』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

文献報告・ディスカッションへの参加(50%)

個人の研究報告(50%)

【学生の意見等からの気づき】

新規開講につき、特になし。

【その他の重要事項】

内容について相談するので、履修予定者は必ず初回授業に参加すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学

<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民—日本における産業再編成と技能』(名古屋大学出版会、2021年)

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to consider labor and industrial relations in Japan from the perspective of transnational sociology. Learning Objectives: In this course, students will be expected to learn the theoretical and practical issues related to the world of work in transition, discuss research questions and methods of each participant's research interest and attempt to apply the ideas and framework of transnational sociology into one's field of research.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter(s) from the reading assignments.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

SOC500E1 - 1209

社会学特殊研究 5

仁平 典宏

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学研究 2」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフォーコーの言説分析から、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。

本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはワークも活用しながら理解を深めていきたい。

なお受講者は言説研究の経験の有無を問わない。

【到達目標】

・言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解できるようになる

・それぞれの方法には、どのような前提と課題があるか理解できるようになる

・KH コーダーを用いた計量テキスト分析の基礎的操作ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・コロナの感染が抑えられている場合は対面で行うが、そうでない場合は、Zoom を利用しオンラインで行う。Zoom での授業実施となった場合には、学習支援システムでアドレスやログイン方法を伝える。

・テーマごとの課題論文を提示するので事前に読んで上で、各自コメントペーパーを作成する。それに基づくディスカッションを行う。

・KH コーダーや R などのソフトウェアを用いたテキストマイニングの実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の趣旨と流れを説明する。
第 2 回	言説と構築主義	構築主義が社会学にもたらした意義について検討する。
第 3 回	方法論的構築主義の展開と困難	方法論的な構築主義の到達点と隘路について検討する。
第 4 回	言説と「実態」——統計の位置づけについて	言説研究において「実態」の位置はどこにあるのか、公式統計の処理の仕方を通じて検討する。
第 5 回	権力と言説	言説と権力の関係について検討する。
第 6 回	歴史と言説	歴史研究における言説の位置について検討する。
第 7 回	概念分析について 1	概念分析という手法について理解を深める。
第 8 回	概念分析について 2	概念分析という手法について理解を深める。
第 9 回	対話的構築主義をめぐって	対話的構築主義について、その内容と意義を検討する。
第 10 回	言説と因果推論	言説を扱いつつ、因果関係にいかに向か、関連する論文を読んで検討する。
第 11 回	計量テキスト分析のロジックと方法	計量テキスト分析に関する論文を通じて、その特徴について検討する。
第 12 回	計量テキスト分析の実際 1	KH コーダーや R の使い方について実習する。
第 13 回	計量テキスト分析の実際 2	KH コーダーや R を実際に使って、分析を試みる。
第 14 回	総括討論	総括討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

7 月半ばまでに、下記の Dropbox で文献情報を共有します。事前に読んで上、授業当日までにフォルダ内にある購読票にコメントのメモを記入してください。それに基づいてディスカッションを行います。

https://www.dropbox.com/sh/vyin8n87d86ekb0/AAA5ZWf365wIiG4W_YrA9NBta?dl=0

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

7 月半ばまでに、下記の Dropbox で文献情報を共有します。

https://www.dropbox.com/sh/vyin8n87d86ekb0/AAA5ZWf365wIiG4W_YrA9NBta?dl=0

【参考書】

スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』(マルジュ社)
 ベスト, J. 『社会問題とは何か—なぜ、どのように生じ、なくなるのか?』(筑摩書房)
 佐藤俊樹・友枝敏雄編 『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』(東信堂)
 中河伸俊・赤川学編 『方法としての構築主義』(勁草書房)
 酒井泰斗他編 『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』(ナカニシヤ出版)
 樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】』(ナカニシヤ出版)
 仁平典宏 『「ボランティア」の誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』(名古屋大学出版会)
 など

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ワークにおいてはパソコンを使用する。KH コーダーを用いる上での利便性、Windows の PC をお勧めするが必須ではない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学(市民社会論、福祉社会学、教育社会学)
 <研究テーマ>
 日本型生活保障システムの再編下における社会の構造変容と帰結について、セクター間関係、及び、サブシステム間関係に注目して研究している。
 <主要研究業績>
 『「ボランティア」の誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』(名古屋大学出版会、2011年)
 『教育学年報 11 教育研究の新章』(共編著、世織書房、2019年)
 『平成史【完全版】』(共著、河出書房新社、2019年)
 『市民社会論—理論と実証の最前線』(共著、法律文化社、2017年)

【Outline (in English)】

【Course outline】

While there are many studies in sociology that use discourse and textual data, the methodologies/theories they rely on range from constructivist and Foucauldian discourse analysis to text mining using natural language processing. In this context, the novelty of the findings as well as the validity of the analytical procedures and the ontological and epistemological assumptions about the discourse/society relationship are sometimes severely questioned.

This course aims to provide students with a basic perspective on the different methodological positions and assumptions that are required for the study of discourse. We will deepen our understanding by reading and discussing the basic literature, and partly by using work.

No prior experience in discourse research is required.

【Learning Objectives】

The goals of this course are as follows:

- To understand the several methodological positions involved in the sociological analysis of discourse.
- To understand the assumptions and issues involved in each method.
- To understand how to conduct a basic level of sociological quantitative text analysis using KH coder.

【Learning activities outside of classroom】

By mid-July, we will share literature information in the Dropbox below. (https://www.dropbox.com/sh/vyin8n87d86ekb0/AAA5ZWf365wliG4W_YrA9NBta?dl=0)

Please read it in advance and write notes of your comments on the subscription form in the folder by the day of class. Discussion will be based on them.

Your required study time is about two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on class participation and contribution.

SOC500E1 - 1210

社会学特殊研究 6

水島 久光

備考(履修条件等): 博士後期課程「社会学研究 3」と合同

実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

社会学的探究を行う上で、必要な資料の探索はどのように行うのか。あるいは逆に資料との出会いからどのように社会学的な問いを立ち上げるのか。アーカイブや資料施設を利用した実践的な授業を行います。

【到達目標】

履修者は、アーカイブや資料施設を利用し、実際に問いを立て、分析実習を行い、小論文を作成します。今期は「アジア太平洋戦争」をテーマに、資料間の関連性と、メディア表現の課題を考えることにより、エビデンスに基づく論述スキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は対面形式で実施する。

<前半>

8月1日(3,4限) アーカイブ研究と「戦争」(講義)

8月2日(3~5限) 放送アーカイブと映像分析、研究テーマの設定(講義+演習)

8月3日(3~5限) 戦争資料館と一次資料の保全、フィールドワーク(講義+演習)

<後半>

8月10日(3~5限) 中間報告とディスカッション(演習)

8月12日(3~5限) 最終報告と「戦争」研究の今後(演習+講義)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アーカイブ研究と「戦争」(1)	社会学研究とアーカイブの関係/デジタルアーカイブの発展史
第2回	アーカイブ研究と「戦争」(2)	アジア太平洋戦争に関する資料の保全・継承の課題
第3回	放送アーカイブについて	NHK アーカイブス、放送ライブラリーほかの施設利用について。
第4回	映像分析の方法	どのように映像に向き合うのか、映像文法と意味解釈。
第5回	研究テーマの設定	核となる映像の選択、研究計画の立案。
第6回	戦争関連資料の現状	現状と課題サマリー。
第7回	都内(近郊)資料館のフィールドリサーチ(1)	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第8回	都内(近郊)資料館のフィールドリサーチ(2)	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第9回	中間報告(1)	問題設定、資料分析の報告。
第10回	中間報告(2)	問題設定、資料分析の報告。
第11回	改善に関するディスカッション	追加調査の計画。
第12回	最終報告(1)	得られた知見は何かについて報告。
第13回	最終報告(2)	得られた知見は何かについて報告。
第14回	まとめ講義	戦争の歴史をいかに継承していくか、討議。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各回の授業時間内では、十分な資料の収集、フィールドリサーチ（訪問）、分析・検討はできません。次回の授業日までに到達すべきラインを示しますので、それを目指して準備を行ってください。

【テキスト（教科書）】

水島久光『戦争をいかに語り継ぐか：「映像」と「証言」から考える戦後史』（NHK 出版、2020）

【参考書】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』（法律文化社、2020）

福岡良明『戦後日本、記憶の力学』（作品社、2020）

米倉律『八月ジャーナリズム』と戦後日本』（花伝社、2021）

桜井均『テレビは戦争をどう描いてきたか』（岩波書店、2005）

【成績評価の方法と基準】

中間報告（4日目：30%）、最終報告（5日目：30%）、研究計画（2日目：10%）、訪問メモ（3日目：10%）の提出（計80%）＋ディスカッションの参加・内容（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

映像視聴可能なPCを各自用意のこと。

【その他の重要事項】

必要に応じてZOOMで連絡をとります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学、情報記号論、アーカイブ研究

<研究テーマ>メディアと公共性、表現と倫理

<主要研究業績>『戦争をいかに語り継ぐか』（NHK 出版、2020）、『メディア分光器』（東海教育研究所、2017）、『「新しい生活」とはなにか』（書籍工房早山、2021）など著書多数

【Outline (in English)】

How to search for the materials you need to do sociological research? How to raise sociological questions from the encounter with materials? Practical lessons using archives and materials facilities.

Learning Goal : Students are required to use archives and resource facilities, formulate actual questions, conduct analytical exercises and write essays. This term, with the theme of the 'Asian Pacific War', the aim is to develop evidence-based argumentation skills by considering the relevance between sources and the challenges of media representation.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. It is not possible to collect sufficient material, conduct field research (visits), analyse and review in each class period. Each lesson will indicate what you need to prepare for the next lesson, so please aim to prepare accordingly.

Grading Criteria : Evaluation is based on submission of interim report (30%), final report (30%), research plan (10%) and visit notes (10%) (80% in total) + participation and content of discussions (20%).

SOC500E1 - 1302

統計分析法

多喜 弘文

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法2」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS : リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS : リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイト「SPSS : リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。受講生の希望と社会状況によっては対面授業を複数回設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線形代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第6回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。

片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。

その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40%）とレポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会階層論・教育社会学・比較社会学

<研究テーマ>教育と不平等の比較社会学

<主要研究業績>

『学校教育と不平等の比較社会学』ミネルヴァ書房（2020年、単著）。

中村高康・三輪哲・石田浩編『少子高齢社会の階層構造 I 人生初期の階層構造』東京大学出版会（2021年、章分担任執筆）。

The Economics of Marginalized Youth: Not in Education, Employment, or Training Around the World, Routledge（2022年、共編著）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports (60%).

SOC500E1 - 1304

調査研究法

武田 俊輔

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会調査法1」と合同**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究の実際の場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析する思考法を習得する。まずは社会学の調査研究の古典、近年の優れた研究を講読し、また担当者自身の研究のデータ収集・分析のプロセスを見ていくことを通して、それらの問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学ぶ。さらに受講者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】

- ・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
- ・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインあるいは対面（ハイブリッド）での演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論1：社会学と社会調査	社会学における社会調査の歴史と発展について学ぶ。
第2回	総論2：社会調査の諸類型	社会調査のさまざまな類型について学ぶ。
第3回	総論3：社会調査の倫理と真正性	社会調査における調査倫理、また調査における確からしさについて学ぶ。
第4回	フィールドワークの光と影1：ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む	ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』とその解説を手がかりにフィールドワークについて学ぶ。
第5回	フィールドワークの光と影2：武田俊輔『コモンズとしての都市祭礼』におけるデータ収集と分析	武田俊輔『コモンズとしての都市祭礼』とその解説を手がかりにフィールドワークについて学ぶ。
第6回	フィールドワークの光と影3：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおけるフィールドワーク調査の活用について討議する。
第7回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる1：谷富夫『民族関係の都市社会学』を読む	谷富夫『民族関係の都市社会学』を手がかりに、ライフヒストリー研究について学ぶ。
第8回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる2：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおけるライフヒストリー研究の活用について討議する。
第9回	テキストデータの分析1：赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』を読む	赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』を手がかりに、テキストデータの言説分析について学ぶ。
第10回	テキストデータの分析2：船戸・武田他「テレビの中の農業・農村」[戦後ラジオ・テレビ放送における「農村」表象の構築プロセス]におけるデータ収集と分析	船戸・武田他「テレビの中の農業・農村」[戦後ラジオ・テレビ放送における「農村」表象の構築プロセス]を手がかりに、映像資料の分析について学ぶ。
第11回	テキストデータの分析3：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおけるテキストデータや映像資料の分析の活用について討議する。
第12回	社会関係を計量する1：フィッシャー『友人のあいだで暮らす』を読む	フィッシャー『友人のあいだで暮らす』を手がかりに、量的データの分析について学ぶ。
第13回	社会関係を計量する2：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおける量的データの分析とその活用について討議する。

- 第14回 各自の問題関心に基づく調査デザインの最終発表と相互討論
受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したりサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したりサーチデザインの報告レジュメを作成すること。

【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載。

【参考書】

各回ごとに授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30%、報告の内容評価 30%、筆記試験 40%。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることを求める。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学生支援システムへの PC によるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格の H 科目に該当する。
博士後期課程「社会調査法1」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学
<研究テーマ>文化社会学・地域社会学・都市社会学・メディア論
<主要研究業績>武田俊輔,2020,『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. They will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics, recent excellent research, and the research of the instructor. In addition, They will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class presentation : 30%, in class contribution: 30%

SOC500E1 - 1305

質的資料分析法

田嶋 淳子

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法3」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップします。

【参考書】

- 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣
- 佐藤郁哉,2008『質的データ分析法—理論・方法・実践』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加 (40%)、演習課題への取り組み (60%)

【学生の意見等からの気づき】

非該当

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学
<研究テーマ>中国系移住者コミュニティの比較社会学的研究、移住第2世代問題
<主要研究業績> 2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店、
2018『中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容』栗田和明編『移住と移住』昭和堂。
2021『イタリアにおける中国系移住者家族の変遷』『移民政策研究』第13号,66-78 ページ。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.

First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.

Learning Objectives

Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC600E1 - 2100

メディア社会学基礎演習 1

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：「メディア社会学基礎演習 3」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究を進めるにあたっての基礎的な文献を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に行い、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアコースおよび演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第 2 回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第 3 回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第 4 回	ポストメディア時代のメディア研究	メディア研究基礎
第 5 回	マシンとしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 6 回	マシンとしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 7 回	フォーム/フォーマットとしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 8 回	フォーム/フォーマットとしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 9 回	欲望としてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 10 回	欲望としてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 11 回	メディアのアルケオロジー (1)	メディア研究基礎
第 12 回	メディアのアルケオロジー (2)	メディア研究基礎
第 13 回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第 14 回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

【テキスト（教科書）】

伊藤守編 (2021) 『ポストメディア・セオリーズ：メディア研究の新展開』 ミネルヴァ書房。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告 (70%)、平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

指定教科書を、より多く、かつ最新の研究事例に触れることのできる文献に変えました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になるので、各自自宅で使えるパソコンが必要になる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、オーディエンス/ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC600E1 - 2101

メディア社会学基礎演習2

小林 直毅

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースに入学した大学院生として求められる、メディア研究の基礎となる理論と方法を学ぶ。けっしてメディアの世界だけに内向きに狭く閉じこもった問題構成を図ることなく、社会的現象や社会的課題を学術的に考察していくために、人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディアの可能性と課題を広範、かつ系統的に解明することのできる研究資質の形成を図る。

【到達目標】

メディア研究が、どのように問題構成を図り、研究目標を設定し、どのような研究成果を、どのようにして学術論文としてまとめていくべきかを理解し、実践していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究の基礎として不可欠な理論と方法、その実践的可能性を論じたテキストを、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、毎回、報告とディスカッションを重ねていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	研究テーマと問題構成	夏季休暇中の研究成果に即した、分担報告の決定。
第3回	メディア研究とは何か(1)	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第4回	メディア研究とは何か(2)	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第5回	理論と方法(1)	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第6回	理論と方法(2)	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第7回	問題構成の視点(1)	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第8回	問題構成の視点(2)	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第9回	中間総括	これまでの報告と議論を振り返って、全員でディスカッション。
第10回	実践的課題(1)	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第11回	実践的課題(2)	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第12回	メディア研究の課題(1)	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第13回	メディア研究の課題(2)	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第14回	総括討論	メディア研究としての各自の論文構想について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ロジャー・シルバーストーン（吉見俊哉、伊藤守、土橋臣吾訳）『なぜメディア研究か——経験・テキスト・他者——』せりか書房。

【参考書】

伊藤守編著（2009）『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房。
他の参考文献等は、授業を進める過程で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告（50%）、ディスカッション（50%）の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
メディア文化研究
<研究テーマ>
メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究
<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）
『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）
『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）
『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）
『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）
『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）
『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）
『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）
『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）
『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）
『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）
『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, in order to consider social phenomena and social issues academically, we aim to form research qualities that can broadly and systematically illuminate the possibilities and issues of the media.

Learning objectives:

The goal of this course is to understand how media studies should structure problems, set research goals, and summarize what research results are in academic papers.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC600E1 - 2102

メディア社会学基礎演習3

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：「メディア社会学基礎演習1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究を進めるにあたっての基礎的な文献を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に行い、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	メディアコースおよび演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第2回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第3回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第4回	ポストメディア時代のメディア研究	メディア研究基礎
第5回	マシンとしてのメディア	メディア研究基礎
第6回	マシンとしてのメディア	メディア研究基礎
第7回	フォーム／フォーマットとしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第8回	フォーム／フォーマットとしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第9回	欲望としてのメディア (1)	メディア研究基礎
第10回	欲望としてのメディア (2)	メディア研究基礎
第11回	メディアのアルケオロジー (1)	メディア研究基礎
第12回	メディアのアルケオロジー (2)	メディア研究基礎
第13回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第14回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

【テキスト（教科書）】

伊藤守編（2021）『ポストメディア・セオリーズ：メディア研究の新展開』ミネルヴァ書房。

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

指定教科書を、より多く、かつ最新の研究事例に触れることのできる文献に変えました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になるので、各自自宅で使えるパソコンが必要になる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、オーディエンス／ユーザー研究

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC500E1 - 2200

メディア理論 1 (メディアの歴史と思想)

小林 直毅

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人類史上の重要な出来事の実験とその記録と記憶をめぐる身体の技術的、制度的な変容を、メディアの歴史と思想として考察する。

【到達目標】

当面する諸現象、諸課題を、仮構的な「メディアの世界」だけに内向きに狭く閉じ込めて自己完結する「メディア研究」から脱却して、「人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディア」の歴史と思想を問い直すメディア研究の可能性と課題を考察できるようになることが、この授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ハロルド・A・イニス『メディアの文明史——コミュニケーションの傾向性とその循環——』をテキストとして、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、報告とディスカッションを重ねていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第 2 回	この授業の問題構成	参加者の研究テーマに即した分担報告の決定。
第 3 回	文明史におけるメディアの意義	テキストの第 1 章前半の分担報告。
第 4 回	メディアの特性と文明の形態 (1)	テキストの第 1 章後半の分担報告。
第 5 回	メディアの特性と文明の形態 (2)	テキストの第 2 章前半の分担報告。
第 6 回	メディアと時間概念の歴史 (1)	テキストの第 2 章後半の分担報告。
第 7 回	メディアと時間概念の歴史 (2)	テキストの第 3 章前半の分担報告。
第 8 回	メディアと空間支配の歴史 (1)	テキストの第 3 章後半の分担報告。
第 9 回	メディアと空間支配の歴史 (2)	テキストの第 4 章前半の分担報告。
第 10 回	現代文明と機械化-産業化したメディア (2)	テキストの第 4 章後半の分担報告。
第 11 回	18 世紀のイギリスの出版業	テキストの第 5 章前半の分担報告。
第 12 回	合衆国における科学技術と世論 (1)	テキストの第 5 章後半の分担報告。
第 13 回	合衆国における科学技術と世論 (2)	テキストの第 6 章の分担報告。
第 14 回	「批判的検討」	テキスト第 7 章の分担報告と総括討論。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

ハロルド・A・イニス (久保秀幹訳)『メディアの文明史——コミュニケーションの傾向性とその循環——』ちくま学芸文庫。

【参考書】

「参考文献リスト」を配布する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告 (50%) と討論における達成度 (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア/アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』(世界思想社、2003 年)

『テレビはどう見られてきたのか』(共編著、せりか書房、2003 年)

『水俣学研究序説』(共著、藤原書店、2004 年)

『水俣学講義 [第2集]』(共著、日本評論社、2005年)
『テレビニュースの社会学』(共著、世界思想社、2006年)
『「水俣」の言説と表象』(編著、藤原書店、2007年)
『テレビジョン解体』(共著、慶應義塾大学出版会、2007年)
『ポピュラーTV』(共著、風塵社、2009年)
『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』(共著、日外アソシエーツ、2012年)
『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』(共著、ナカニシヤ出版、2013年)
『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』(共著、世界思想社、2014年)
『原発震災のテレビアーカイブ』(編著、法政大学出版局、2018年)

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will be able to consider the technical and institutional transformation of the body over the experience of important events in human history and their records and memories as the history and thought of the media.

Learning objectives:

The goal of this course is to break away from "media studies" that are narrowly confined inward and self-contained, and to re-examine the history and ideas of "media as a technology and institution that enables human recognition and existence."

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC500E1 - 2201

メディア理論2 (メディアの哲学と思想)

李 舜志

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではいわゆる「デジタルゲーム研究」に分類される文献の輪読を行うが、そのねらいは「デジタルゲームに詳しくなること」ではなく、情報技術革命を経て高度に発展したメディアと人間の関係について考察することである。より詳しく言うと、AIやVR、DXといった「キヤッチフレーズ」に惑わされることなく研究を進めるために、正確で明快な言葉を会得することである。

【到達目標】

情報技術の発展によって到来する(と言われている)社会の在り方を考察するために、概念や術語の精度を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを輪読する。毎週発表担当を決め、担当者はレジュメを用意し、テキストの読解およびディスカッションを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の内容を紹介する。
第2回	テキストの輪読①	『ハーフリアル』の第一章「序論」を輪読する。
第3回	テキストの輪読②	『ハーフリアル』の第二章「ビデオゲームと古典的ゲームモデル」を輪読する。
第4回	テキストの輪読③	『ハーフリアル』の第三章「ルール」を輪読する。
第5回	テキストの輪読④	『ハーフリアル』の第四章「フィクション」を輪読する。
第6回	テキストの輪読⑤	『ハーフリアル』の第五章「ルールとフィクション」を輪読する。
第7回	テキストの輪読⑥	『ハーフリアル』の第六章「結び」を輪読する。
第8回	テキストの輪読⑦	『ビデオゲームの美学』第四章「ビデオゲームの統語論」を輪読する。
第9回	テキストの輪読⑧	『ビデオゲームの美学』第五章「ビデオゲームの意味論」を輪読する。
第10回	テキストの輪読⑨	『ビデオゲームの美学』第六章「虚構世界」を輪読する。
第11回	テキストの輪読⑩	『ビデオゲームの美学』第七章「ゲームメカニクス」の前半を輪読する。
第12回	テキストの輪読⑪	『ビデオゲームの美学』第七章「ゲームメカニクス」の後半を輪読する。
第13回	テキストの輪読⑫	『ビデオゲームの美学』第十一章「プレイヤーの虚構的行為」を輪読する。
第14回	テキストの輪読⑬	『ビデオゲームの美学』第十二章「行為のシミュレーション」を輪読する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週課題となる文献の箇所(おおよそ20~30ページほど)を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『ハーフ・リアル』、イエスパー・ユール、ニューゲームズオーダー、2016年。
『ビデオゲームの美学』、松永伸司、慶應義塾出版会、2019年。

【参考書】

『ゲーム学の新時代：遊戯の原理 AIの野生 拡張するリアリティ』、中沢新一、中川大地編著、NTT出版、2019年。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表とディスカッションを評価対象とする。

レジュメを用いた発表：50%

ディスカッション：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>教育哲学

<研究テーマ>人間形成論

<主要研究業績>「バルナール・スティグレルにおける注意概念について——過去把持の批判的読解に着目して——」『教育学研究』第85巻第1号、pp.1 - 12、2018年5月。

【Outline (in English)】

The goals of this course are to learn the way in which digital games have an influence on human being.

Therefore, this class deal with books regarding "digital games." However, this class does not focus on knowledges of digital games. The reason to read books regarding digital games is that a study of digital games examines the relation between human and digital media. That is to say, this class deal with this relation through a study of digital games.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on presentations(50%) and discussions(50%).

SOC500E1 - 2203

メディア理論4

北原 利行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上ではフェイクニュースや炎上、あるいは名誉毀損、誹謗中傷などさまざまな問題が指摘されているが、その一方で人々の情報摂取行動はどんどんインターネットに移行しつつある。その結果、旧来のマスメディア（新聞、放送、出版、映画など）の地位は相対的に低下し、インターネットのSNSやさまざまなメディア、サービスが興隆しているようにも見える。その一方でニュースの提供者はマスメディアの報道機関が主流を占めており、放送や映画からさまざまな番組コンテンツが提供されている。従来のメディアごとに独立したアプローチでメディア、コミュニケーション上のさまざまな事象を捉えることが困難になっている。一つには発信者、受信者が相対化し明確な区分を持ち得ないからでもある。メディア、コミュニケーションの社会的機能を捉え直し、それを支えるビジネス構造的な視点も含めて、メディアやコミュニケーションのあり方について考察し、現代社会におけるそれらの上で起きているさまざまなコミュニケーション上の諸問題への分析手法、解決の方策について論じる。特にマスメディアとソーシャルメディアの関係について双方の立場から論じることができるクリティカルな視点の獲得を目指す。

【到達目標】

メディア、コミュニケーションについての基礎的な理論の習得。メディア、コミュニケーションの全体像の俯瞰、比較のために多種・多様なメディアについての俯瞰や理解、インターネット上のコミュニケーション、ソーシャルメディアなどについての理解、消費者・生活者の情報摂取行動についての基礎的な知識の習得を最初に講義形式で行うその上でマスメディア、インターネット上でのコミュニケーションなどの現状におけるさまざまな諸問題についての分析力および課題解決のための論理的構築できるスキルを習得する。必要に応じて具体的な調査手法や調査実践などについてもとりあげる。また、プレゼンテーションスキルの向上も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習形式で行う。

講義については、レジュメを配布し、内容に沿って説明し、受講者に対して問題提起し、リアクションについての議論を行うことで、インタラクティブな形式で進行させる。講義が終了した後に復習もかねてリアクションペーパー的な課題を課する予定。

受講者の問題意識をもとに、課題解決のための演習形式を取り入れて、受講者との間でのディスカッションを行い、課題解決のための思考を深めスキルの向上を図る。

授業内容については、受講者の関心領域などに対して柔軟に対応するので、下記の授業計画からの変更の可能性もある。

アクティブラーニングに関しては、途中に設ける予定。

授業形式については対面講義を基本とするブレンド授業形式またはハイフレックス授業形式を想定しているが、受講者の要望、社会環境の変化などに柔軟に対応する。

第一回目の講義に関しては学生の対面参加での可否を確認するためにオンラインで実施する。その結果をもとに二回目以降の講義の仕方について対応を検討する。

課題等に関しては適宜必要に応じて実施するが、フィードバックに関しては講義内もしくは学習システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講者の問題関心の確認 メディア、コミュニケーションについての全体像の俯瞰、基礎理論の確認

第2回	メディア論	メディア論の基礎、マスメディア論について
第3回	コミュニケーション論 ①	コミュニケーション論の基礎、多種多様なコミュニケーションの形態について
第4回	コミュニケーション論 ②	インターネットを中心としたコミュニケーションの解析
第5回	新聞	新聞産業の構造、新聞の受容、ジャーナリズムなどの諸問題について
第6回	テレビ・ラジオ	テレビ・ラジオ産業の構造、テレビの受容、視聴率などの諸問題について
第7回	出版	出版産業の構造、書籍・雑誌の受容、電子出版などの諸問題について
第8回	映画・アニメ、その他	映画産業、アニメ産業の構造、その受容、その他メディアなどの諸問題について
第9回	インターネット	インターネットの構造、消費者の情報摂取行動、コミュニケーションの諸相
第10回	インターネットサービス、コンテンツ	インターネット上のメディア、サービスを他のメディアとの対比で分析する。インターネット上での諸問題の検討。
第11回	ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの現状、多のメディア、コミュニケーションとの関係性
第12回	演習①	受講者の問題意識にそって演習形式で課題の検討を行う。
第13回	演習②	受講者の問題意識にそって演習形式で課題の検討を行う。
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に、新聞やテレビなどの多くのメディアに幅広く意識的に接触すること。

インターネット上のサービス等についても積極的に把握する。特に SNS の活用を通じて現状の諸問題についての理解を深めておくこと。

講義内容に沿って生じた疑問などを参考書などを中心に予習・復習する。日常より問題意識を持って、メディア、コミュニケーション上の諸問題について批判的に捉えることで受講者自身が設定した演習課題についての考察を深める。

授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。準備よりも復習に重点を置くこと。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書は使用しない。講義の都度レジュメ、資料等を配布する。

【参考書】

吉見俊哉『メディア文化論－メディアを学ぶ人のための 15 話』（有斐閣）、佐藤卓己『メディア社会－現代を読み解く視点』（岩波書店）、M. マクルーハン『メディア論』（みすず書房）、L. レッシーグ『REMIX』（翔泳社）、電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』（ダイヤモンド社）など。

講義内でも関連参考書について紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（講義、課題への参加度） 60%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

アニメーション市場関連についての要望が多い。また既存のメディアとソーシャルメディアの関係についての関心が高い。また、マスメディアについての現状の整理についても一定のニーズが存在している。

【学生が準備すべき機器他】

諸連絡、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

電通総研、電通コミュニケーションラボにおいて、マスメディア、コミュニケーションについてのリサーチ、コンサルティングなどに従事。それらの経験に基づいて、多角的・俯瞰的に講義を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア、コミュニケーション、広告

<研究テーマ>

マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷

<主要研究業績>

「コロナ禍で進んだ新聞のDX——「2020 年日本の広告費」から見る動向」、2021 年 4 月、新聞研究

{地方紙が地域課題解決の核にカギは当事者報道にあり}、2017 年 7 月、朝日新聞 Journalism

「2018 広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」(共著)、2017 年 12 月、日経広告研究所

「情報メディア白書」(共著)、2007 年～、ダイヤモンド社

【Outline (in English)】

On the Internet, various problems such as fake news, flame wars, defamation, and slander have been pointed out, but on the other hand, people's information intake behavior is shifting more and more to the Internet. As a result, the status of the traditional mass media (newspapers, broadcasting, publishing, movies, etc.) has relatively declined, and the Internet's social networking services and various other media and services seem to be flourishing. On the other hand, mass media news organizations are the mainstream providers of news, and various program contents are provided by broadcasting and movies. It has become difficult to capture various events in media and communication with the traditional independent approach of each media. One reason for this is that senders and receivers have become relative and there is no clear division between them. In this lecture, I will review the social functions of media and communication, and discuss the state of media and communication from the perspective of the business structures that support them, as well as analytical methods and solutions to the various communication problems occurring in contemporary society. In particular, we will discuss the relationship between mass media and social media. In particular, we aim to acquire a critical perspective that enables us to discuss the relationship between mass media and social media from both perspectives.

[Learning activities outside of classroom]

Be proactive and have broad, conscious contact with a number of media outlets, including newspapers and television.

Actively keep abreast of Internet services, etc. In particular, deepen your understanding of current issues through the use of social networking services.

Standard class preparation and review time is 2 hours each. It is more important to review than to preparation.

[Grading Criteria/Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Participation in lectures and assignments 60%

Final report 40%

SOC500E1 - 2205

メディア特殊研究 1 (ブランド広告の意味研究)

青木 貞茂

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえ明らかにする。

【到達目標】

現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明らかにし、ともに情報の意味についての考察を深めていく。本授業は、Zoom を使用してオンラインで実施する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第 2 回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第 3 回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第 4 回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第 5 回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第 6 回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する手法
第 7 回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第 8 回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第 9 回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第 10 回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第 11 回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第 12 回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第 13 回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第 14 回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要と授業全体でのまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間 2 時間、復習時間 2 時間、1 回につき計 4 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

青木貞茂『文化の力』(NTT 出版、2008 年)

【参考書】

津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロバガンダ』(ミネルヴァ書房、2003 年)
 佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012 年)
 他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(70%)、課題レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】

理論についての理解を深めるため、より詳細な説明を行なうことを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 広告論、ブランド論

<研究テーマ> 文化と広告、ブランド、マーケティング

<研究業績> 単著『文脈創造のマーケティング』(日本経済新聞社、1994 年)、
 『文化の力』(NTT 出版、2008 年)

共著『記号化社会の消費』(ホルト・サウンダース・ジャパン、1985 年)、
 『広告の記号論』(日経広告研究所、1987 年)、
 『文化の消費が始まった』(日本経済新聞社、1989 年)、
 『広報・広告・プロバガンダ』(ミネルヴァ書房、2003 年)、
 『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012 年)
 共訳書としてレイモア『隠された神話』(日経広告研究所、1985 年)

【Outline (in English)】

In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.

In today's society, brands are entities of such great significance and value that they cannot be ignored in our daily lives. Using methods such as structuralism and semiotics, the aim of this course is to be able to analyze and understand the structure and meaning of advertising information, what creates a brand, and how it works and influences us. Students will take an active interest in, and gather information about, brands and their advertising communication in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard duration of this course is two hours of preparation and two hours of review, for a total of four hours per session. Evaluation is based on ordinary points (70%) and assignment reports (30%).

SOC500E1 - 2208

メディア特殊研究4（ソーシャルメディア論）

藤代 裕之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題と可能性を考えます。

【到達目標】

ソーシャルメディア社会のあり方を理解し、課題と可能性を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習を前提に質疑や議論を行います。現在進行形で起きるメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第3回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第4回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第5回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第6回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第7回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第8回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第9回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第10回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第11回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第12回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第13回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（共同規制）
第14回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。平常点は、授業中の発言や質問などで判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者はガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understand social media and media literacy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

SOC500E1 - 2209

メディア社会学特殊研究1（消費者行動論）

諸上 茂光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアで発信される商品やブランドに関する情報を受け取る消費者の心理と行動を理解するために、先行する消費者行動論の理論を理解し、これを実践的に活用する能力を修得するための討議を行う。

【到達目標】

消費者心理・消費者行動の分析に関する基礎的な理論を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

消費者心理・消費者行動に関する基礎的な文献を輪読によって読み進めながら、ケーススタディを行う。毎回授業時には課題が課され、事前準備を基に討議を行う形式を取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について、輪読の担当者の決定。
第2回	Buying, Having and Being	輪読及び討議
第3回	Perception	輪読及び討議
第4回	Learning and Memory	輪読及び討議
第5回	Motivation and Global Values	輪読及び討議
第6回	Personality and Psychographics	輪読及び討議
第7回	Attitudes and Persuasion	輪読及び討議
第8回	Decision Making	輪読及び討議
第9回	Buying and Disposing	輪読及び討議
第10回	Organizational and Household Decision Making	輪読及び討議
第11回	Groups and Social Media	輪読及び討議
第12回	Social Class and Lifestyles	輪読及び討議
第13回	総合討議	全体を通じた振り返りと討議
第14回	まとめ	レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習として授業毎に決められた範囲について予め読んでおき、レジュメを作成する必要があります。このレジュメと、担当回の輪読資料に基づいて討議を行います。

【テキスト（教科書）】

Michael R. Solomon : Consumer Behavior: Buying, Having, and Being(12th Edition),Person,2016.

【参考書】

授業内にて適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

出席及びレジュメの提出 50%

授業内の討議への参加状況と内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の予習に合わせ進度を調整する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

消費者心理・消費者行動

<研究テーマ>

消費者心理におけるコンテクストの効果の解明

<主要研究業績>

<https://researchmap.jp/morokami/>

を参照のこと

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the concepts and principles of consumer behavior analysis.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports:50%,in class contribution: 50%

SOC500E1 - 2211

取材文章実習

高瀬 文人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

取材文章とは「事実に基づいた思考とその表現」と言い表すことができる。事実を集め、評価し、導き出される結論を展開し、適切に表現する方法は、ジャーナリズムや学問に限らず全ての思考の基本であり、その重要性はますます高まっている。この授業ではジャーナリズムの文章（取材文章）を自分の思考法とリンクして身につけ、受講者の「学びのスキル」とする。

【到達目標】

- 取材文章がどのような構造でできているかを分析し、理解できる。
- 新聞、雑誌、書籍、ウェブなどの媒体ごとに、文章の特徴を理解できる。
- 問題意識、事実の見かた、収集と整理、論理の展開と論証の基本的な技術を身につける。
- 事実の確認と評価の方法を理解できる。
- インタビューをはじめとする取材方法を学ぶ。
- 学んだ方法論をもとに、事実を知らせる文章を書く。
- 学んだ方法論をもとに、複数の事実から新しい価値を生み出す文章を書く。
- 他者が書いた文章を読み解き、校正し、向上のための方針を立てる。
- 媒体に合わせた発信方法を考え、文章を書き、仕上げる。
- 取材者・表現者としての自らとメディア、そして社会との関わり合いについて考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況、また学生のニーズによって、オンラインのみあるいは対面との組み合わせにすることも考えられる。初回授業時に学生と打ち合わせの上決定したい。「書く」ことで思考を深める授業の特性上、全体を通じて時間内に、あるいは課題として短い作文、あるいは取材に関連する簡単な作業を課し、それについての討論・添削を予定している。授業は基本的に討論形式とし、講師と受講者、または受講者同士の討論を活発化することで気づきや深まりを期待する。また、日本語文法などの短いレクチャーを適宜行い、より文章のスキルを高められるように授業を設計する。受講生の関心などを考慮し、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ジャーナリズムの文章とその思考法	新聞・雑誌記事を題材に、記事や新聞紙面・雑誌レイアウトの見せ方などの構造を分析し、そこにどのような思考や意図が含まれているかを知る。
第2回	表現方法の構造と変化① 新聞・放送・雑誌・書籍	メディアごとの記事や表現方法の特徴と歴史の中での変化を知る。また、それぞれの文章の違いを知る。
第3回	表現方法の構造と変化② ネット媒体の勃興とレガシーメディアの変容	デジタルメディアの歴史と情報の検索・伝播の構造を知り、旧来のメディアがどう変容しているかを知る。
第4回	問題意識、事実の収集・分析、展開と論証	最近の記事やメディアをめぐる状況の実例から、記事の基本的構造を知る。必要な要素を整理し、自分が書く際の際のスキルとして意識化できる。
第5回	フェイクニュースとその攻防——事実を確認するには	「フェイクニュース」は、意図的なデマとして流される場合も多いが、きちんと仕事をしていても作ってしまうことがある。防ぐポイントは事実の裏付けにある。その手法を学び、簡単な実践をしてみる。
第6回	取材文章思考①テーマとリサーチ	取材の出発点である「発想」、方向性を決めるための情報収集である「リサーチ」はどのようにしたらよいか、どんな手段があるか。簡単な実践をしながらそれらの「方法」を身につける。
第7回	取材文章思考②取材と情報整理	「取材」とは何をするのか。取材文章思考①での準備を踏まえて取材計画をどのように立て、実行するかを、「取材執筆実習」の回に向けて計画する。また、取材をどのように記録し、情報を整理するかを学ぶ。簡単なワークショップを行う予定。

第8回	取材文章思考③伝えるための文章の構造・執筆のルール	取材で得、整理した事実を組み立て、執筆の方向性を決め、執筆にかかる。その論理の組み立てと、文章の基本について、簡単なワークショップを行う中で学ぶ。
第9回	取材執筆実習①テーマ設定とリサーチの実際	この回から13回まで、受講生はテーマを設定して取材文章を仕上げ、発信する実践を行う。テーマ設定の問題意識と、それを取り上げる必然性を説明できるように考え、発表する。必要なりサーチを行う。
第10回	取材執筆実習②取材・インタビューの実際	講師が設定するテーマにより、実際にインタビュイー（被取材者）にインタビューし、取材のノウハウを学ぶ。
第11回	取材執筆実習③情報整理と執筆の実際	取材で得た情報を整理し、筋書きにまとめ、執筆する作業を行う。授業時間内に終えることができない場合は、課外の時間を使って仕上げることも想定される。
第12回	取材執筆実習④発信を踏まえた編集実習	他の受講生が仕上げた原稿を、編集者の立場になって読み、校正し、よりよい内容になるよう添削・アドバイスする。受講生はそのアドバイスを従い、自らの原稿をさらにブラッシュアップする。
第13回	取材執筆実習⑤活字媒体の発信、ネット媒体の発信	新聞、雑誌、放送、ネットなど、媒体によって適した文章の書き方がある。自分の記事をそれぞれの媒体で発信することを考えて、バリエーションを作ってみる。
第14回	取材スキルとジャーナリズム、そして社会	講義全体を通して得たスキルを振り返り、受講生自身の、これからのもの見方、考え方、表現のしかたにどう影響したかを考える。それを踏まえ、ジャーナリズムの社会における役割、さらに表現者としての自らのあり方について考えを進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備は特に必要としないが、ネットの報道のみならず、新聞・雑誌などオールドメディアの報道に慣れておくことよい。簡単な調査や短い執筆をとまなう宿題が4-5回程度出される予定。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。実習で使用する参考書は適宜案内するが、必ずしも購入する必要はない。

【参考書】

『(新版)日本語の作文技術』（本多勝一著、朝日文庫）『大人のための国語ゼミ』（野矢茂樹著、山川出版社）『報道記者のための取材基礎ハンドブック』（西村隆次著、リーダーズノート）『校正記号の使い方』『原稿編集ルールブック』（ともに日本エディタースクール）

【成績評価の方法と基準】

到達目標へのプロセスにおける論理立てや思考の深まりを実践し、学生にその方法を自分のものとするを重視している。そこで、授業における発言などの積極的な貢献度（50%）も高く評価する。討論などで貢献のある学生にはさらに加点していく。取材文章の評価（50%）は講義を通しての成果物である。文章の評価は、文章の完成度とともに、問題設定や情報収集の方法や思考プロセスとその過程、さらに表現に意を払っているかに重点を置いている。

【学生の意見等からの気づき】

文法など文章テクニックの短い講義・実習を織り込むことなどで、授業の目的である「問題意識の立て方」「事実の見かた・評価のしかた」「論理展開」について、受講生は一定のレベルに達することができた。今回は、受講生のそれまでの能力を判定し、そこに立脚してさらに実力を高める工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、タブレット、PCなど、ネットに接続できる機器があるとよい。

【その他の重要事項】

教員は現役の記者、ノンフィクションライター、雑誌・書籍編集者、校正者として幅広い領域で活動しており、いま現在の実例を用いて、多様な観点をふまえて受講者と討論しながら取材文章に必要な思考と技術を学べるよう授業を設計している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として執筆・編集業務全般にわたり携わる。
<研究テーマ>
調査報道の現代的あり方、リサーチ教育
<主要研究業績>
『リーガル・リサーチ』2003年、日本評論社
『ひと目でわかる六法入門 第2版』2018年、三省堂
『鉄道技術者 白井昭』2012年、平凡社

【Outline (in English)】

[Course outline]

Story in Journalism can be expressed as "It was thought based on the fact and its expression." The way to gather facts, evaluate the derived conclusions and express them properly is fundamental not only for journalism and academic things but also for all ideas, its importance is increasing more and more I will.

[Learning Objectives]

In this classroom, you will master the sentences of journalism (writing interviews) linked with your own way of thinking.

It aims at "learning skills".

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Article writing: 50%, in class contribution: 50%

SOC500E1 - 2212

調査報道実習 1

山口 仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な報道分析に向けた実践的な演習を行う。受講生は学術的な報道分析の手法を習得し、研究成果（例えば、修士論文、博士論文、学会発表、投稿論文）として完成させることを目的とする。

【到達目標】

実際に報道分析を行っている学術論文や学術書をレビューしながら、その手法を具体的に学んでいく。その上で受講生は具体的な事例を自ら設定し、それに関する報道の分析を繰り返し演習として行っていく。そして研究報告や論文執筆が出来るようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式を採用する。具体的には学術論文・学術書の輪読・報告、課題の事例分析の発表・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報道分析とは何か	現在のメディア・ジャーナリズム研究において具体的に報道を分析する意義について講義をする。「理論を用いて事例を解釈するのか」、「事例の分析を通じて理論を説明するのか」を分けて考えることの重要性について解説する。
第 2 回	報道分析に関する先行研究レビュー①（輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。
第 3 回	報道分析に関する先行研究レビュー②（講義・輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。できれば、「問題ある」報道分析についても明らかにしていきたい。
第 4 回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション①	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第 5 回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション②	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第 6 回	各自の分析報告①	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第 7 回	各自の分析報告②	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第 8 回	各自の分析報告③	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第 9 回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する①	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第 10 回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する②	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第 11 回	担当教員による報道分析の解説（演習）	担当教員が実際に行ってきた、もしくは行っている報道分析について自己反省的に解説する。
第 12 回	報道分析を研究発表するための実習①	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第 13 回	報道分析を研究発表するための実習②	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第 14 回	報道分析を研究発表するための実習③、まとめとふりかえり。	半年間の授業を振り返り、自らの研究へと反映させていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題論文・図書の輪読資料の作成。報告のための準備。講評・コメントを反映。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書は無い。

【参考書】

山口仁（2018）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房、4500円（税別）…担当者が行った報道分析をまとめた著書。

【成績評価の方法と基準】

報告や発表などの平常点（50%）と期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

輪読や分析報告の形式は自由だが、パワーポイントなどのスライドでも紙媒体のレジュメ形式でも対応できることが望ましいです。

【その他の重要事項】

兼任講師なので特定の時間のオフィスアワーはありません。受講生にはメールアドレスをお伝えしますのでそちらに連絡するようにしてください。対面授業を予定しておりますが、コロナ感染状況によって大学がオンライン授業に切り替えるなどのやむを得ない事情がある場合は授業形式を変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ジャーナリズム論、マス・コミュニケーション論

<研究テーマ>ジャーナリズムに関する社会構築主義的研究

<主要研究業績>『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実（2018年・勁草書房）』

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire skills in academic news analysis. The goals of this course are to analyze news articles and write a academic report. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

SOC500E1 - 2213

調査報道実習2

川島 浩誉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ビジネスにおける意思決定・ジャーナリズムにおける問題提起・政策形成における根拠と説明責任などを始めとして、データ及びデータ分析に基づく意思決定とその方法論が社会的・市場的価値を増している。本科目は、データ分析の枠組みと考え方から実装までを習得することを目的とし、そのための道具としてプログラミング言語 Python を実習形式で習得する。なお、あくまで調査や分析を学ぶことが主であるため、プログラミングの経験はゼロから始めても既に多少持っていて学ぶことができる。

【到達目標】

本科目は、実習形式にてプログラミング言語 Python を習得することを土台とし、Python を用いた具体的な構造化・非構造化データの分析を行うことで、データ分析の枠組みと考え方から実装までを習得し、「データと分析に基づいた主張」を理解し、行うことができるようになることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンライン授業の形態で実施する】

各自のノート PC を用いた実習が中心である。

説明 1→実習 1→解説 1→説明 2→実習 2…の繰り返しを軸として講義が進む。

受講者の理解度は小課題と質疑応答によって行う。不明な点を再度説明したり、少し後ろに戻って説明をし直すこともあるため、講義の進行は必ずしも予定通りにいかないこともある。進行速度は受講生の理解に応じて調整する。

データ分析を学ぶための題材は、こちらで用意するものに加えて、受講者が希望する（修論で予定している）テーマを取り入れることも可能なため、受講者にとって最も学びやすい形で対応することが可能である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Python プログラミング (1)	プログラミング環境の確認と Python コーディングのチュートリアル
第2回	Python プログラミング (2)	変数の種類とプログラムの流れの制御
第3回	Python プログラミング (3)	ファイルの読み書きと簡単な集計、課題の出題
第4回	Python プログラミング (4)	課題の共有とここまでの復習としての実習
第5回	Python プログラミング (5)	コードの設計と読みやすい書き方
第6回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (1)	web ページのクローリングとスクレイピングの概要
第7回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (2)	web ページのクローリングとスクレイピングの実習および課題
第8回	仮説形成と分析計画	仮説形成と分析計画
第9回	分析プロジェクトの立案	分析プロジェクトの立案

第10回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (3)	ソーシャルメディアデータの取得方法の説明
第11回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (4)	ソーシャルメディアデータの取得方法の実習
第12回	テキストの計量分析 (1)	テキストデータの計量分析の概要
第13回	テキストの計量分析 (2)	テキストデータの計量分析の実習
第14回	テキストの計量分析 (3)	テキストデータの計量分析のプログラミング、課題の出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は積み上げ型で理解が進むため、復習が特に重要となる。不明な点を講義中の質問あるいは講義後にメールで問い合わせ解消すること及び小課題を行うことが復習であり、同時に次回の準備学習になる。これまでの受講者から話を伺った限り、データ分析やプログラミングは復習にかかる時間は個人差があるため、一律何時間ということではなく各人のペースで復習を行うことになる。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を印刷して配布するため必要な教科書はない。

【参考書】

講義で行う実習に関連した（講義資料の作成に当たって用いた）書籍として下記の3冊を特記する。

・柴田淳 著、みんなのPython 第4版、SBクリエイティブ
・樋口耕一 著、社会調査のための計量テキスト分析、ナカニシヤ出版
・原泰史 著、Pythonによる経済・経営分析のためのデータサイエンス、東京図書

また、データ分析の理屈や方法に関する書籍は近年数多く出版されており、講義の中でも何冊かを取り上げ、それぞれがどのような範囲のことが書かれているものであるかを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

なお、レポートは1回のみではなく、講義内の演習と講義後の宿題として複数回行われる。提出されたものを総合して成績評価を行う。課題は、プログラミングそのものの課題と、調査分析課題（プログラミングを道具として用いて何かを調べたり何かを分析したりする課題）に分かれる。課題に取り組んだ結果、講義の理解に不明な点がある場合は、次回以降の講義の中で補足説明を行う。補足説明に関しては受講生からのリクエストも受け付ける。そのため、採点としては最初の出題、提出のみではなく、不明点に関する質問や補足説明等を経た結果、理解できたことも評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は少人数講義であることから、各受講生の個別の理解度に合わせて質疑を行う時間は充分にあるが、受講生が不明点を言語化できるとは限らないため、受講生が理解度を顕在化させ、教える側はそれを把握して説明の方略を変更しやすいようにするため、講義中に成績と結びつかない小課題や、加点しやすい小課題も所要所で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自のノートPC（今年はオンライン授業であることから自宅のデスクトップPCでも可）を用いる。

講義で使うソフトウェアをインストールする必要があり、インストール方法を図示したマニュアルを事前配布する。

【その他の重要事項】

本講義では、主にプログラミングの未経験者を想定しているため、他言語の経験等は全く必須ではない。

一方、データ分析の実習であることから、コンピュータそのものに慣れていないひと（ファイルやフォルダという言葉がわからない、Excelでの集計をまったく行ったことがない、ソフトウェアのインストールをまったくしたことがない、など）は不明点を積極的に言語化する必要がある。

本講義は集中講義のため、一日分の講義の終了時点で課題を出題する。そのため、14回の講義を何日の講義日に振り分けるか次第では、シラバスで示した各回の講義内容とズレが発生することがある。また、受講者の関心が強いところ、考え方に慣れておらず時間をかけた説明が必要など、においてはその都度に対応するため、各回の内容が前後することもある。

【担当教員の専門分野等】

<現職での専門分野>戦略コンサルティングにおけるデータアナリティクス

<研究者としての専門領域>科学計量学、計量書誌学

<過去の研究テーマ>日本における学術論文著者の構造、学術研究者の雇用市場、科学技術関係政策文書の変遷の計量

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The objectives of this practical training is

1. To acquire programming skill. It consists of

1-1. the skill of specific programming language(We use Python in this lecture)

1-2. the skill of algorithm(how to order our demand to the computer)

2. Introducing how to analyze the data for your discussion.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 100%

SOC500E1 - 0300

学際研究 1 (人間形成と social pedagogy の視座)

平塚 眞樹

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Social pedagogy は、一言でいえば、社会的政治的視野をもって pedagogical に人にアプローチする学問です。欧州 (特に北欧・ドイツ語圏) において、子ども、高齢者、障がい者、移民、排除された若者・女性などに関わる現場や専門家の中で発達しました。現場は、地域における教育・保育、福祉、余暇活動など広範です。本授業では、担当教員がこれまで訪問してきた北欧圏の現場も紹介しつつ、人間形成 (ひとの学び・育ち) を social pedagogy の視座でみると何がみえてくるか、文献を読み合いながら考えます。

【到達目標】

修士課程

Social pedagogy に関する基礎的素養を身につける。

人間形成 (ひとの育ち・学び) に関する専門的理解を深める。

英語文献を介して、質の高い議論に参加する。

博士後期課程

自分の研究テーマに social pedagogy の視座を反映できる。

Social pedagogy の視座を通した人間形成の課題について知見をもつ。

英語文献を介して質の高い議論をリードする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに担当教員による social pedagogy に関する基礎的レクチャーと、いくつかの現場訪問記録の紹介を通して、最低限のイメージ共有を図る。その後、関連文献を読み合いながら「social pedagogy の視座を通した人間形成の課題」を論じあい、思考を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の目的・方法・進行予定などを共有し、授業で読み合う文献を決める
第 2 回	social pedagogy とはなにか?	担当教員による social pedagogy の基本的理解に関するレクチャー
第 3 回	人間形成とはなにか?	担当教員による人間形成と教育の関係に関するレクチャー
第 4 回	social pedagogy の現場	欧州における social pedagogy の現場を学ぶ
第 5 回	social pedagogy の基本的理解に関する文献を読む①	social pedagogy の基本的文献を読みあい、理解を共有する
第 6 回	social pedagogy の基本的理解に関する文献を読む②	social pedagogy の基本的文献の論点について議論をおこなう
第 7 回	social pedagogy の基本的理解に関する文献を読む③	social pedagogy の基本的理解に関する文献について包括的討議をおこなう
第 8 回	social pedagogy の現場の専門家に関する文献を読む①	social pedagogy の現場の専門家に関する文献を読み合い理解を共有する
第 9 回	social pedagogy の現場で働く専門職に関する文献を読む②	social pedagogy の現場の専門家に関する文献の論点について議論を行う
第 10 回	social pedagogy の現場で働く専門職に関する文献を読む③	social pedagogy の現場の専門家について文献をめぐり包括的討議を行う
第 11 回	人間形成の現場における social pedagogy に関する文献を読む①	人間形成の現場における social pedagogy に関する文献を読み合い理解を共有する
第 12 回	人間形成の現場における social pedagogy に関する文献を読む②	人間形成の現場における social pedagogy に関する文献の論点について議論を行う
第 13 回	人間形成の現場における social pedagogy に関する文献を読む③	人間形成の現場における social pedagogy に関する文献について包括的討議を行う
第 14 回	まとめと確認	これまでの学習をふりかえり、まとめと確認を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で少しずつ文献を読んでいきますので、その予習・復習が必要です。本授業の予習・復習時間は 1 回あたり 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストを使わず論文を読みます

候補としている論文は以下のようです。

・ J. Storø. (2012). The Difficult Connection between Theory and Practice in Social Pedagogy. *International Journal of Social Pedagogy*, 1(1), 17-29. Available online: <http://www.internationaljournalofsocialpedagogy.com>

・ J. Hämäläinen (2012). Social Pedagogical Eyes in the Midst of Diverse Understandings, Conceptualisations and Activities. *International Journal of Social Pedagogy*, 1(1), 3-16. Available online: <http://www.internationaljournalofsocialpedagogy.com>

・ Niels Rosendal Jensen (2013), 'Social pedagogy in modern times', in "education policy analysis archives" Volume 21 Number 43

・ Úcar, X. (2021). Constructing questions for the social professions of today: the case of social pedagogy. *International Journal of Social Pedagogy*, 10(1): 9. DOI: <https://doi.org/10.14324/111.444.ijsp.2021.v10.1.009>.

・ Langager, S. (2011). "If my friends are there, I'll come too ..." *Social Pedagogy, Youth Clubs and Social Inclusion Processes*. Chapter 11, *Social Pedagogy for the Entire Lifespan*, Volume 1, Edited, Kornbeck, J & Jensen, N, R. Bremen: EHV.

・ Häkli, J., Korkiamäki, R., & Kallio, K. P. (2018). 'Positive recognition' as a preventive approach in child and youth welfare services. *International Journal of Social Pedagogy*, 7(1): 5. DOI: <https://doi.org/10.14324/111.444.ijsp.2018.v7.1.005>.

・ Petersen, K. E. (2021). Leisure and youth clubs' work with young people of ethnic minority background living in socially deprived housing areas: creating processes of hope and empowerment through social pedagogical work. *International Journal of Social Pedagogy*, 10(1): 10. DOI: <https://doi.org/10.14324/111.444.ijsp.2021.v10.x.010>.

【参考書】

適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における質の高い報告、討議への貢献で評価をおこないます。報告 (50%)、討議への参加 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業を担当していないため記載せず

【学生が準備すべき機器他】

オンライン方式の授業になりますので、ICT など参加環境を整える必要があります

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

以下の学術情報データベースを参照ください

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/14/0001340/profile.html>

【Outline (in English)】

Course outline : Social pedagogy is the study of approaching people pedagogically with a social and political perspective. It has developed in Europe (especially in Scandinavia and the German-speaking countries) in the field and among professionals working with children, older people, disabled people, migrants, excluded young people and women. The field covers a wide range of activities such as education, childcare, welfare and leisure activities in the community. In this class, I will introduce some of the sites in the Nordic countries, and discuss what can be seen when we look at human development (learning and growing up) from the perspective of social pedagogy.

Learning Objectives : Master's programme students are required to acquire a basic grounding in social pedagogy, to develop a professional understanding of human development, and to be able to participate in high quality discussions through English literature.

Doctoral Course students are required to be able to reflect the perspectives of social pedagogy in their own research topics, to have an insight into human development through the perspective of social pedagogy, and to be able to lead high quality discussions through the English literature.

As we will read literatures in each class, students will need to prepare and review it. The standard study time for this class is at least two hours in each class.

Grading Criteria /Policy : Students are graded on the quality of presentation about articles and contribution to the discussion in each class. Presentation (50%), participation in the discussion (50%)

SOC500E1 - 0302

学際研究3（歴史学の方法とその歴史・現在）

慎 蒼宇

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、歴史学の立場から学問として歴史を捉える方法について、現在の興味深い研究を素材に学んでいこうと思う。歴史学は理論と離れたものではないが、その独自の任務は実証によって問題に向かい、過去の事象を把握しえた根拠を明示することにある。その範囲は限られたものではあるが、それらを学ぶことで「歴史的思考」を豊かにするきっかけをつくることができると考えている。対象は東アジア近現代史を中心に、近年の研究を中心に「歴史学の現在」に接近を試みたい。

【到達目標】

東アジア近現代史を中心に、近年の歴史研究に触れることで、歴史学の問題意識や方法に対する理解を深め、各自の研究テーマに対し、大状況と小状況、支配と被支配の権力関係、歴史の連続と断絶、といったダイナミックな思考を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講読が基本になる。テキストについては最初の講義で決定する。テキストは全員読み、担当者はレジュメを作成して報告し、受講生で議論する。近年の研究については研究者をお招きし、学習会を行う。受講生の状況に応じて輪読の方法を決める。なお、本授業は、Zoomを使用してオンラインで実施する。毎回質疑応答の時間を多く設け、講義内容の理解を促進するためのコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方／文献の選定など
第2回	方法から考える①	歴史学の基礎についての概論
第3回	方法から考える②	戦後歴史学の特徴について考える
第4回	方法から考える③	現代歴史学の成果と課題
第5回	方法から考える④	史料論から考える
第6回	東アジアと日本①	講読と討議
第7回	東アジアと日本②	講読と討議
第8回	東アジアと日本③	講読と討議
第9回	近年の特集を読む①	講読と討議
第10回	近年の特集を読む②	講読と討議
第11回	近年の特集を読む③	講読と討議
第12回	アクチュアルな課題①	講読と討議
第13回	アクチュアルな課題②	講読と討議
第14回	まとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

決められたテキストは必ず全員読むことが必須。報告者は報告レジュメを作成すること。テキストが決まったら、関連した参考図書も第2回目に提示するので読むことを薦める。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回に打ち合わせを行い決定する。

【参考書】

講義のなかで適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

報告の水準（50%）、出席や講義での討論などの参加度（50%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

We learn with the present interesting study as a material about the way to catch history as learning from the view point of historical science. A target is East Asia contemporary history.

SOC500E1 - 0304

学際研究5（場の質的心理学）

土倉 英志

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の認知や行為はつねにどこかの「場」でなされる。人を理解するにあたり、場から切り離してしまうのではなく、場と関連をとどめたまま理解する方法を模索しながら学んでいく。本講義では、特に質的心理学の立場から、インタビューと観察を用いた研究に取り組んでいく。第一に関心を寄せる対象はコミュニティカフェである。

【到達目標】

- ・質的データの分析に関する基本的な考えかたを身につける
- ・質的研究のプロセスを見とおせるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業はグループワークとディスカッションを中心に進める。
- ・フィールドワーク、インタビュー、データの書き起こしは授業時間外に実施する。
- ・最終的に研究成果をまとめたプレゼンを行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	調査テーマの説明
2	調査テーマの説明	調査テーマの説明と議論
3	RQの説明	リサーチクエスションの確認と再検討
4	調査項目の設定（1）	調査項目の確認
5	調査項目の設定（2）	調査項目の再検討
6	研究手法の説明	インタビューの練習
7	分析手続きの説明	質的データの分析の説明
8	トランスクリプトの説明	トランスクリプトの作成方法の説明
9	データの分析（1）	グループでデータを分析する
10	データの分析（2）	グループでデータを分析する
11	データの分析（3）	グループでデータを分析する
12	プレゼンの作成	研究成果の報告資料を作成する
13	プレゼンテーション	研究成果を報告し、討論する
14	まとめ	プレゼンの修正、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外にも様々な活動に取り組むことが必要になります。たとえば、指定の文献を読む、調査に出かける、インタビューの書き起こしを行なう、データの整理を行なう、研究成果の報告資料を作成する、といったことです。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし

【参考書】

- ・適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で課される課題（調査含む）への取り組み（70 %）と最終プレゼンの完成度（30 %）によって評価する。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業時間を有効に利用するために、授業外の課題も取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。
- ・PC を使って作業を進める。Excel も利用する。

【その他の重要事項】

- ・調査にかかる交通費は原則、自己負担となります。
- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会心理学、認知科学、質的心理学
 <研究テーマ>創造性、経験／創造による学習、コミュニティデザイン
 <主要研究業績>教員のウェブサイトを参照してください

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010660/profile.html>

【Outline (in English)】

In this course, students learn qualitative methodologies for investigating cognition and action in the real world, not in the laboratory. In particular, we focus on the interview method. The goal of this course is to obtain basic knowledge of qualitative approaches in psychology. Students conduct field research, interview informants, transcribe interview data, analyze transcripts, and report research outcomes. The goals of this course are to acquire basic knowledge of interviewing, to develop basic skills in analyzing qualitative data, and to understand the process of qualitative research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on presentation (30%), and in-class contribution (70%).

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1 (英語)

樋口 明彦

備考 (履修条件等) : 学部「外書講読 (社会学) 2 A」と合同

実務教員 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2020年頃から猛威を振るったコロナ禍は、若者の暮らしを大きく変え、「コロナ世代 covid generation」を生み出した。本授業では、イギリスの事例を検討しながら、日本との国際比較を視野に入れた社会学的考察を行う。取り上げる主なテーマは、「政府のコロナ対策」「若者の日常生活」「学校」「失業」「メンタルヘルス」「政府への信頼感」などである。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事・政府統計・民間団体レポート・SNSなども活用する。

【到達目標】

- ①英語で書かれたテキストを正確に理解する。
- ②テキストの読解を通じて、日本の社会状況を社会学的に分析する。
- ③若者に対するコロナの影響について、専門的な社会学的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

演習。

- ①イギリスにおけるコロナ対応の年表作成 (合同作業)
 - ②各自、提示されたテーマから1つ選んで、英語テキスト購読、レジュメ作成、報告
 - ③日本の事例と比較しながらディスカッション
 - ④各自、コロナ政策の評価レポートを作成、報告
- ※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イギリスのコロナ対策
2	イギリスの状況	年表作成
3	テキスト購読①	政府のコロナ対策
4	テキスト購読②	若者の日常生活
5	テキスト購読③	若者の家族生活
6	テキスト購読④	若者の交友生活
7	テキスト購読⑤	学校
8	テキスト購読⑥	失業
9	テキスト購読⑦	メンタルヘルス
10	テキスト購読⑧	政府への信頼感
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	年表完成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①テキスト購読、②レジュメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは担当教員が準備して受講生に配布する。

Daisy Francourt, 2021 "People started breaking Covid rules when they saw those with privilege ignore them", The Guardian, 2 Jan 2021.

Richard Partington, 2020, "Covid generation: UK youth unemployment 'set to triple to 80s levels'", The Guardian, 7 Oct 2020.

UCL COVID-19 Social Study, 2021, "Understanding the psychological and social impact of the pandemic".

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 (50%)
- ②評価レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に沿って、テキスト内容を一部変更

【その他の重要事項】

本授業は、受講許可科目です。希望者は、必ず初回授業に参加して、教員の許可を得ること。

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要研究業績】

樋口明彦, 2021, 「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障 : 横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店。

樋口明彦, 2017, 「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline (in English)】

This lecture is about the impact of Covid-19 on young people. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC500E1 - 0308

外国書講読2 (英語)

樋口 明彦

備考(履修条件等)：学部「外書講読(社会学)2B」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

2020年から猛威を振るったコロナ禍は、各国に未曾有のコロナ対策を促した。このような施策は市民の行動を大きく制限すると同時に、しばしばうまく機能しなかったため、市民の不満を増大させ、世界中でさまざまな抗議運動を引き起こすことにつながった。本授業では、「怒り rage」をキーワードに、政治家のスキャンダル、右派ポピュリズム、左派ポピュリズム、社会運動、テロリズム、社会や政治への不信感、あきらめの広がりなど、「怒り」に起因するさまざまな社会現象を社会的に考察する。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、英語テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事・政府統計・民間団体レポート・SNSなども活用する。

【到達目標】

- ①英語で書かれたテキストを正確に理解する。
- ②テキストの読解を通じて、現在の社会状況を分析する。
- ③怒りの社会現象について、専門的な社会的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

演習。

- ①コロナ対応の年表作成(合同作業)
 - ②各自、提示されたテーマから1つ選んで、英語テキスト購読、レジュメ作成、報告
 - ③日本の状況と比較しながらディスカッション
 - ④各自、「怒り」に対する評価レポートを作成、報告
- ※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コロナ対策と怒り
2	コロナ対策と怒りの状況	年表作成
3	テキスト購読①	政治家のスキャンダル
4	テキスト購読②	右派ポピュリズム
5	テキスト購読③	左派ポピュリズム
6	テキスト購読④	社会運動
7	テキスト購読⑤	テロリズム
8	テキスト購読⑥	社会への不信感
9	テキスト購読⑦	政治への不信感
10	テキスト購読⑧	あきらめの広がり
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	年表完成

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①テキスト購読、②レジュメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは担当教員が準備して受講生に配布する。

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点(50%)
- ②評価レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に沿って、テキスト内容を一部変更

【その他の重要事項】

本授業は、受講許可科目です。希望者は、必ず初回授業に参加して、教員の許可を得ること。

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要研究業績】

樋口明彦, 2021. 「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障：横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店。

樋口明彦, 2017. 「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline (in English)】

This lecture is about protests over responses to the COVID-19 pandemic. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC500E1 - 0308

外国書講読2（英語）

吉田 公記

備考（履修条件等）：学部「外書講読（メディア社会学）1B」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では社会学の学術誌に掲載された研究論文を講読し、英語文献の読み方の基礎を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた学術的な文章を正確かつ批判的に講読する技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では文単位で正確に理解することと、パラグラフなどまとまった単位で内容を理解することの両面に重点を置きながら読み進めていく。受講生は解説を聞いて各自の訳文（場合によっては要約）を添削し、疑問点や問題点を解決する。受講生に訳文や要約を発表してもらうこともある。提出課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。授業計画は展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・社会学の入門的な文章の講読①	授業の概要説明
第2回	社会学の入門的な文章の講読②	第1回授業分の解説
第3回	講読論文を読む①	Abstractを読み、論文の全体像を把握する
第4回	講読論文を読む②	Introductionを読む①
第5回	講読論文を読む③	Introductionを読む②
第6回	講読論文を読む④	Methodを読む①
第7回	講読論文を読む⑤	Methodを読む②
第8回	講読論文を読む⑥	Analysisを読む①
第9回	講読論文を読む⑦	Analysisを読む②
第10回	講読論文を読む⑧	Analysisを読む③
第11回	講読論文を読む⑨	Analysisを読む④
第12回	講読論文を読む⑩	Discussion and conclusionを読む①
第13回	講読論文を読む⑪	Discussion and conclusionを読む②
第14回	まとめ	これまでに学んだ内容の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された範囲の訳文（場合によっては要約）を準備し、わからなかった箇所や難しかった箇所は疑問点を明確にしておくこと。前々日までに学習支援システムから訳文（場合によっては要約）を提出することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Brigitte Nerlich and Rusi Jaspal, 2021, "Social representations of 'social distancing' in response to COVID-19 in the UK media," *Current Sociology*, 69(4): 566-583.

<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/0011392121990030>

*なお、初回授業の時点で文献が入手困難な場合、変更する可能性がある。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題点：100%

*課題がほぼ毎回ある。内容は、①授業で読む範囲の訳文（場合によっては要約）の提出（授業前）と②自己添削物の提出（授業後）が中心となる。

*評価は課題点をベースとするが、授業への参加姿勢なども考慮し、総合的に評価する。期末試験・期末レポートは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書、スマートフォンの辞書でも可）

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学

<研究テーマ> イギリスにおける排外主義

<主要研究業績>

・吉田公記, 2019「イギリスにおけるEU移民の福祉受給とミドルクラスの排外主義」『大原社会問題研究所雑誌』733：28-39.

・吉田公記, 2018「ワークフェア型福祉国家における移民の包摂と排除——イギリスの排外主義政党UKIPの躍進背景の考察」『年報社会学論集』31：48-59.

・ロジャース・ブルーベイカー著・佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳, 2016『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シテイズンシップ・国民国家』明石書店（第1章・第2章の翻訳を担当）.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn skills to read academic (sociological) papers written in English. Students are required to translate or summarize specified parts of the paper in advance to prepare for the classes.

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1 (仏語)

高橋 愛

備考(履修条件等)：学部「フランス語上級A1・B1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

・2020年からのフランスのテレワーク事情、パリ市が推進する緑化プロジェクトなど、最新情報や統計を盛り込んだフランス語の記事を読み、必要な語彙や表現を身につけながら読解力をアップさせる。
・教育、経済、環境、社会、芸術、文学、政治の多様なテーマを扱った文章によって、フランス社会の現状や課題、文化の重層性も知る。

【到達目標】

イデオムや動詞、多義語などの幅を広げ、辞書を引きながら専門分野の文献を読み、理解できるレベルの読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定した箇所を予習する。(固有名詞などの語句、文法について、難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでほしい。)授業では、その箇所の文章を構文や時制などに注意して、全員で読解する。テキストの音読練習も行い、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。

・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、教科書の説明
2	Leçon 1. Les uniformes de retour ? 【教育】制服への回帰?	講読 重点的に復習する文法：動詞の種類(自動詞と他動詞)、命令形、疑問文
3	Leçon 1. Les uniformes de retour ? 【教育】制服への回帰?	講読 Exercices
4	Leçon 2. Vers la réforme du baccalauréat et de l'entrée à l'université 【教育】バカロレアと大学入試改革	講読 重点的に復習する文法：複合過去、過去分詞、半過去
5	Leçon 2. Vers la réforme du baccalauréat et de l'entrée à l'université 【教育】バカロレアと大学入試改革	講読 Exercices
6	Leçon 3. Le rugby, nouveau sport vedette ? 【スポーツ】ラグビー、新たなスポーツ?	講読 重点的に復習する文法：単純未来、前未来、受動態
7	Leçon 3. Le rugby, nouveau sport vedette ? 【スポーツ】ラグビー、新たなスポーツ?	講読 Exercices
8	Leçon 4. La France, une nation de startups ? 【経済】フランスはスタートアップの国?	講読 重点的に復習する文法：関係代名詞、指示代名詞
9	Leçon 4. La France, une nation de startups ? 【経済】フランスはスタートアップの国?	講読 Exercices
10	Leçon 5. L'immigration et la culture française 【社会】移民とフランスの文化	講読 重点的に復習する文法：直接目的語、間接目的語
11	Leçon 5. L'immigration et la culture française 【社会】移民とフランスの文化	講読 Exercices

12	Leçon 6. Paris, une ville verte ? 【環境】パリは緑の都?	講読 重点的に復習する文法：代名動詞、前置詞をともなう関係代名詞
13	Leçon 6. Paris, une ville verte ? 【環境】パリは緑の都?	講読 Exercices
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

岡見さえ、ミカエル・デブレ 『12 テーマでわかるフランス事情 [改訂版]』 *Perspectives : l'actualité française en 12 textes (nouvelle édition)*、白水社、2021年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストの理解が深まるよう、各課の冒頭で、取り上げる話題の基本知識を学べるようにする。

・授業終了後しばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てほしい。フランス語全般の質問も随時受け付けている。(メールも可。)

【担当教員の専門分野】

「法政大学学術研究データベース」の URL

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their research. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0308

外国書講読2 (仏語)

高橋 愛

備考 (履修条件等)：学部「フランス語上級A4・B4」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・2020年からのフランスのテレワーク事情、パリ市が推進する緑化プロジェクトなど、最新情報や統計を盛り込んだフランス語の記事を読み、必要な語彙や表現を身につけながら読解力をアップさせる。
・教育、経済、環境、社会、芸術、文学、政治の多様なテーマを扱った文章によって、フランス社会の現状や課題、文化の重層性も知る。

【到達目標】

イデオムや動詞、多義語などの幅を広げ、辞書を引きながら専門分野の文献を読み、正しく理解できるレベルの読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定した箇所を予習する。(固有名詞などの語句、文法について、難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでほしい。)授業では、その箇所の文章を構文や時制などに注意して、全員で読解する。テキストの音読練習も行い、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 7. Le Ballet national de l'Opéra de Paris 【芸術】 国立パリ・オペラ座バレエ団	講読 重点的に復習する文法：比較級、最上級
2	Leçon 7. Le Ballet national de l'Opéra de Paris 【芸術】 国立パリ・オペラ座バレエ団	講読 Exercices
3	Leçon 8. La mode française et sa tradition de mécénat 【ファッション】 ファッションとメセナの伝統	講読 重点的に復習する文法：現在分詞、ジェロンディフ
4	Leçon 8. La mode française et sa tradition de mécénat 【ファッション】 ファッションとメセナの伝統	講読 Exercices
5	Leçon 9. 700 millions de francophones en 2050 !?【国際】 2050年、フランス語の話者7億人!?	講読 重点的に復習する文法：代名詞 en, y, le
6	Leçon 9. 700 millions de francophones en 2050 !?【国際】 2050年、フランス語の話者7億人!?	講読 Exercices
7	Leçon 10. Le télétravail, une organisation idéale du travail ? 【労働】 テレワーク、理想の働き方?	講読 重点的に復習する文法：条件法現在、条件法過去
8	Leçon 10. Le télétravail, une organisation idéale du travail ? 【労働】 テレワーク、理想の働き方?	講読 Exercices
9	Leçon 11. La France, grande nation littéraire【文学】 文学大国・フランス	講読 重点的に復習する文法：接続法現在、接続法過去

10	Leçon 11. La France, grande nation littéraire【文学】 文学大国・フランス	講読 Exercices
11	Leçon 12. Parité et disparités : un bilan contrasté【政治】「パリテ」の現状と課題	講読 重点的に復習する文法：動詞の時制のまとめ、直説法現在のさまざまなニュアンス
12	Leçon 12. Parité et disparités : un bilan contrasté【政治】「パリテ」の現状と課題	講読 Exercices
13	文法のまとめ	文法のまとめ
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

岡見さえ、ミカエル・デブレ [12 テーマでわかるフランス事情 [改訂版]] *Perspectives : l'actualité française en 12 textes (nouvelle édition)*, 白水社、2021年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストの理解が深まるよう、各課の冒頭で、取り上げる話題の基本知識を学べるようにする。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てほしい。フランス語全般の質問も随時受け付けている。(メールも可。)

【担当教員の専門分野】

「法政大学学術研究データベース」の URL
<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their research. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0307

外国書講読1 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等) : 学部「ドイツ語上級A1・B1」と合同

実務教員 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させる。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深める。

【到達目標】

- ・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句の表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。
- ・現代のドイツ語圏の社会や文化について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句の表現に注意しながら訳読する。また、各課の練習問題で文法や成句の意味を確認する。各課でとりあげられているトピックについて調べたり、話し合ったりする時間も設ける。

予習の内容や質問には授業中にフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方 現代ドイツ語圏事情
第2回	Kapitel 01 (前半)	ベルリン・ブランデンブルク空港の開港 (1)
第3回	Kapitel 01 (後半)	ベルリン・ブランデンブルク空港の開港 (2)
第4回	Kapitel 02 (前半)	コロナ禍中の学校教育 (1)
第5回	Kapitel 02 (後半)	コロナ禍中の学校教育 (2)
第6回	Kapitel 03 (前半)	ヤーノシュ生誕 90周年 (1)
第7回	Kapitel 03 (後半)	ヤーノシュ生誕 90周年 (2)
第8回	Kapitel 04 (前半)	夏時間・冬時間の切り替え (1)
第9回	Kapitel 04 (後半)	夏時間・冬時間の切り替え (2)
第10回	Kapitel 05 (前半)	コロナ禍中の障害者 (1)
第11回	Kapitel 05 (後半)	コロナ禍中の障害者 (2)
第12回	Kapitel 06 (前半)	2021年夏の大水害 (1)
第13回	Kapitel 06 (後半)	2021年夏の大水害 (2)
第14回	補足とまとめ	授業内容の補足と確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。

授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10 2022年度版』(朝日出版社)

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)

在間進『リファレンス・ドイツ語』(第三書房)

その他、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のテキストの範囲や授業の進め方の詳細は、受講生の意見もふまえて決める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the sentences and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions.

SOC500E1 - 0308

外国語講読2 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等) : 学部「ドイツ語上級A4・B4」と合同

実務教員 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させる。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深める。

【到達目標】

- ・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の語彙や成句の表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。
- ・現代のドイツ語圏の社会や文化について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句の表現に注意しながら訳読する。また、各課の練習問題で、文法や成句の意味を確認する。各課でとりあげられているトピックについて調べたり、話し合ったりする時間も設ける。学期後半は、最新のニュース記事などを講読する。予習内容や質問には授業中にフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方 現代ドイツ語圏事情
第2回	Kapitel 07 (前半)	砂糖という甘い敵 (1)
第3回	Kapitel 07 (後半)	砂糖という甘い敵 (2)
第4回	Kapitel 08 (前半)	ダウン症とともに暮らす社会 (1)
第5回	Kapitel 08 (後半)	ダウン症とともに暮らす社会 (2)
第6回	Kapitel 09 (前半)	ウィンタースポーツ (1)
第7回	Kapitel 09 (後半)	ウィンタースポーツ (2)
第8回	Kapitel 10 (前半)	「白バラ」の反ナチス抵抗運動 (1)
第9回	Kapitel 10 (後半)	「白バラ」の反ナチス抵抗運動 (2)
第10回	追加テキスト (1)	ドイツ語圏の最新事情 (1)
第11回	追加テキスト (2)	ドイツ語圏の最新事情 (2)
第12回	追加テキスト (3)	ドイツ語圏の最新事情 (3)
第13回	追加テキスト (4)	ドイツ語圏の最新事情 (4)
第14回	補足とまとめ	補足と授業内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

今回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10 2022 年度版』(朝日出版社)

【参考書】

中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)
在間進『リファレンス・ドイツ語』(第三書房)
その他、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100 %

【学生の意見等からの気づき】

各回のテキストの範囲や授業の進め方の詳細は、受講生の意見もふまえて決める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the sentences and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions.

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1 (中国語)

綿貫 哲郎

備考(履修条件等): 学部「中国語上級 A 1・B 1」と合同

実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代漢語(中国語)で書かれた書籍・雑誌・新聞等の文章を正確に読み解く練習・訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

1. ローマ字(ピンイン)は補助的な使用のみにしていく
2. 文成分の分析が正確にできる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れる
4. 辞書を引くことに習熟しながら「類推する力」を涵養する
5. 学修(翻訳)後のリライトで訳文を再確認・再構築する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

主語・述語・修飾語・補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字(ピンイン)つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	精読の基礎(1)	文成分/構造分析① 主語
2	精読の基礎(2)	文成分/構造分析② 述語
3	精読の基礎(3)	文成分/構造分析③ 連体修飾語
4	精読の基礎(4)	文成分/構造分析④ 連用修飾語
5	精読の基礎(5)	文成分/構造分析⑤ 補語
6	精読の基礎(6)	文成分/構造分析⑥ その他の文成分
7	精読の基礎(7)	辞書を使いこなす①
8	精読の基礎(8)	辞書を使いこなす② webの活用
9	精読の基礎(9)	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎(10)	辞書にない事項の検索
11	文章の精読(1)	現代中国を読み解く①
12	文章の精読(2)	現代中国を読み解く②
13	文章の精読(3)	現代中国を読み解く③
14	文章の精読(4)	現代中国を読み解く④

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 確実な予習
2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞・雑誌・web等の記事検索
4. 関連項目の調査・読書等
5. 確実な訳文の再確認・再構築等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」・「中級」と積み上げてきた中国語なので、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた2年次程度の内容から始める。

将来の留学や研究・業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎である。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済・社会・文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】

The aim of this course is to further deepen students' understanding of contemporary Chinese and Chinese-speaking societies and cultures through repeated practice and training in accurately reading and understanding texts in books, magazines, and newspapers written in modern Chinese (Mandarin), and through reading texts.

【到達目標(Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Use romaji (pinyin) only as a supplement.
2. Be able to accurately analyze sentence components.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習(Learning activities outside of classroom)】

1. reliable preparation
2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.
3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
4. Research and read about related topics.
5. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準(Grading Criteria/Policy)】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

SOC500E1 - 0308

外国語講読2 (中国語)

綿貫 哲郎

備考(履修条件等): 学部「中国語上級A4・B4」と合同

実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代漢語(中国語)で書かれた書籍・雑誌・新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

「1」で培った力をもとに新聞・雑誌・書籍などの文章の読解をおこなう。授業では、

1. 長く難解な文の読解(文成分、文の構造分析の徹底)
2. 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける。
3. 学修(翻訳)後のリライトで訳文を再確認・再構築する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌・書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用・慣用的表現にも習熟していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読(1)	文成分、構造分析をしながらの精読(1)
2	時事的な文章の精読(2)	文成分、構造分析をしながらの精読(2)
3	時事的な文章の精読(3)	文成分、構造分析をしながらの精読(3)
4	時事的な文章の精読(4)	文成分、構造分析をしながらの精読(4)
5	時事的な文章の精読(5)	文成分、構造分析をしながらの精読(5)
6	時事的な文章の精読(6)	文成分、構造分析をしながらの精読(6)
7	時事的な文章の精読(7)	文成分、構造分析をしながらの精読(7)
8	多読、速読(1)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(1)
9	多読、速読(2)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(2)
10	多読、速読(3)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(3)
11	多読、速読(4)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(4)
12	多読、速読(5)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(5)
13	多読、速読(6)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(6)
14	多読、速読(7)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む(7)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 確実な予習

2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞・雑誌・web等の記事検索
4. 関連項目の調査・読書等
5. 確実な訳文の再確認・再構築等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来を楽しみに、一緒に辞書を引きましょう。

【Outline (in English)】

【授業の概要と目的(何を学ぶか) / Outline and objectives】

Repeated practice and training in accurately reading and understanding texts in books, magazines, newspapers, etc. written in modern Chinese (Mandarin). Through reading and comprehension of texts, students will further deepen their understanding of the society and culture of modern China and the Chinese-speaking world.

【到達目標 / Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Use romaji (pinyin) only as a supplement.
2. Be able to accurately analyze sentence components.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等) / Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. reliable preparation

2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.

3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.

4. Research and read about related topics.

5. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 / Grading criteria】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

SOC500E1 - 0309

社会学原典講読

徳安 彰

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学原典研究1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教社会学の新しい古典であるホセ・カサノヴァの『近代世界の公共宗教』をテキストにして、原典講読を行う。原典の講読をとおり、宗教の社会的な捉え方と現代社会における宗教のあり方についての理解を深める。

【到達目標】

原典講読を通して、社会的な宗教の捉え方の基礎を理解できるようになる。それと同時に、近現代社会における宗教のあり方について、みずから社会的に考え、理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者が、原典テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。報告にもとづいて、受講者全員で質疑応答や討議を行う。また必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	宗教社会学と世俗化論についての概説
第2回	講読(1)	第1章前半
第3回	講読(2)	第1章後半
第4回	講読(3)	第2章前半
第5回	講読(4)	第2章後半
第6回	講読(5)	第3章
第7回	講読(6)	第4章
第8回	講読(7)	第5章
第9回	講読(8)	第6章
第10回	講読(9)	第7章
第11回	講読(10)	第8章前半
第12回	講読(11)	第8章後半
第13回	まとめ(1)	全員による総括的討議
第14回	まとめ(2)	全員による総括的討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ホセ・カサノヴァ『近代世界の公共宗教』ちくま学芸文庫（2021年）

受講希望者は自分でテキストを購入しておくこと。

【参考書】

とくに指定はせず、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の報告（70%）：テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質によって評価する。

授業への貢献（30%）：各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないのでとくになし

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

We read "Public Religions in the Modern World" (by José Casanova) chapter by chapter. The goals of this course are to acquire the sociological understanding of religion and to analyze the position and situation of religion(s) in the modern society. Expected study time for each class is more than four hours. The overall grade will be decided based on presentation in each class (70%) and in class contribution (30%).

SOC600E1 - 0100

論文指導1

土橋 臣吾

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎(1)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第2回	研究の基礎(2)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第3回	研究の基礎(3)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第4回	研究の基礎(4)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定(1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定(2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定(3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定(4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟(1)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟(2)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟(3)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討(1)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討(2)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討(3)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0100

論文指導 1

樋口 明彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎 (1)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第2回	研究の基礎 (2)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第3回	研究の基礎 (3)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第4回	研究の基礎 (4)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定 (1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定 (2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定 (3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定 (4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟 (1)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟 (2)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟 (3)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討 (1)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討 (2)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討 (3)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (50%)、総合演習報告 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0100

論文指導 1

田嶋 淳子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎 (1)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第2回	研究の基礎 (2)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第3回	研究の基礎 (3)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第4回	研究の基礎 (4)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定 (1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定 (2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定 (3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定 (4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟 (1)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟 (2)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟 (3)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討 (1)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討 (2)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討 (3)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
<研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
<主要研究業績>

- 『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
- 「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂、2018年
- 「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第13号、66 - 78ページ、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0100

論文指導 1

多喜 弘文

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎 (1)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第2回	研究の基礎 (2)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第3回	研究の基礎 (3)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第4回	研究の基礎 (4)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定 (1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定 (2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定 (3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定 (4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟 (1)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟 (2)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟 (3)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討 (1)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討 (2)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討 (3)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会階層論・教育社会学・比較社会学

<研究テーマ> 教育と不平等の比較社会学

<主要研究業績>

『学校教育と不平等の比較社会学』ミネルヴァ書房（2020年、単著）。

中村高康・三輪哲・石田浩編『少子高齢社会の階層構造 I 人生初期の階層構造』東京大学出版会（2021年、章分担任執筆）。

The Economics of Marginalized Youth: Not in Education, Employment, or Training Around the World, Routledge（2022年、共編著）。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0101

論文指導2

土橋 臣吾

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0101

論文指導2

鈴木 智之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0101

論文指導2

慎 蒼宇

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students to write a master thesis.

SOC600E1 - 0101

論文指導 2

小林 直毅

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0101

論文指導 2

田嶋 淳子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
<研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
<主要研究業績>

- 『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
- 「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂、2018年
- 「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第13号、66 - 78ページ、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0101

論文指導2

稲増 龍夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

The purpose of this class is to complete the master's thesis. The evaluation is also in accordance with the paper.

SOC600E1 - 0101

論文指導 2

武田 俊輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学
<研究テーマ>文化社会学・地域社会学・都市社会学・メディア論
<主要研究業績>『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』（新曜社、2019年）、『社会の解読力：文化編』（共編著、新曜社、2022年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100

博士論文指導 I A

岡野内 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導(1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導(2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導(3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導(4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導(1)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導(2)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導(3)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導(4)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(1)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(2)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(3)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導(1)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導(2)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導(3)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100

博士論文指導 I A

恵羅 さとみ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学
 <研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動
 <主要研究業績>『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101

博士論文指導 I B

岡野内 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 <研究テーマ>
 <主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101

博士論文指導ⅠB

惠羅 さとみ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学
<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動
<主要研究業績>『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104

博士論文指導ⅢA

鈴木 智道

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104

博士論文指導Ⅲ A

慎 蒼宇

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、各院生の研究の進捗に応じて変更することがありうる。

なお、本授業は原則対面形式で実施するが、受講者の意向があればオンラインでの参加も認める。ただし、第1回目はオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて適宜指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度に基づき総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0104

博士論文指導Ⅲ A

岡野内 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104

博士論文指導Ⅲ A

徳安 彰

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104

博士論文指導Ⅲ A

鈴木 智之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104

博士論文指導Ⅲ A

諸上 茂光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105

博士論文指導Ⅲ B

鈴木 智道

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105

博士論文指導Ⅲ B

慎 蒼宇

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、各院生の研究の進捗に応じて変更することがありうる。

なお、本授業は原則対面形式で実施するが、受講者の意向があればオンラインでの参加も認める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導(1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導(2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導(3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導(4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導(1)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導(2)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導(3)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導(4)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(1)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(2)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(3)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導(1)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導(2)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導(3)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて適宜指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0105

博士論文指導Ⅲ B

岡野内 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導(1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導(2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導(3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導(4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導(1)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導(2)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導(3)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導(4)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(1)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(2)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(3)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導(1)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導(2)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導(3)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105

博士論文指導Ⅲ B

徳安 彰

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105

博士論文指導Ⅲ B

鈴木 智之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105

博士論文指導Ⅲ B

諸上 茂光

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0200

社会学総合演習 A

社会学研究科教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを本科目の目的とする。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

【到達目標】

査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

7月下旬頃に、院生が査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文に対して、複数の教員が「模擬査読」をおこなう「投稿論文検討会」を開催する。履修学生は所定の期限（6月末予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「投稿論文検討会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成指導（1）	指導教員による
第2回	論文作成指導（2）	指導教員による
第3回	論文作成指導（3）	指導教員による
第4回	論文作成指導（4）	指導教員による
第5回	論文作成指導（5）	指導教員による
第6回	投稿論文検討会	1 時間
第7回	投稿論文検討会	2 時間
第8回	投稿論文検討会	3 時間
第9回	投稿論文検討会	4 時間
第10回	投稿論文検討会	5 時間
第11回	論文改善指導（1）	模擬査読担当者による
第12回	論文改善指導（2）	模擬査読担当者による
第13回	論文改善指導（3）	模擬査読担当者による
第14回	論文改善指導（4）	模擬査読担当者による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

提出された研究論文と当日の報告内容をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice. Grading (P/F) will be decided based on whether you present a paper or not.

SOC700E1 - 0201

社会学総合演習 B

社会学研究科教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究の指針を得ることを目的とする。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

【到達目標】

先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1 月下旬に、博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を開催する。履修学生は所定の期限（12 月中旬予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会前の博論構想指導、報告会後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「博論構想報告会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博論構想指導 (1)	指導教員による
第 2 回	博論構想指導 (2)	指導教員による
第 3 回	博論構想指導 (3)	指導教員による
第 4 回	博論構想指導 (4)	指導教員による
第 5 回	博論構想指導 (5)	指導教員による
第 6 回	博論構想報告会	1 時間
第 7 回	博論構想報告会	2 時間
第 8 回	博論構想報告会	3 時間
第 9 回	博論構想報告会	4 時間
第 10 回	博論構想報告会	5 時間
第 11 回	博論執筆指導 (1)	指導教員による
第 12 回	博論執筆指導 (2)	指導教員による
第 13 回	博論執筆指導 (3)	指導教員による
第 14 回	博論執筆指導 (4)	指導教員による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

博論構想報告会当日の報告をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students. Grading (P/F) will be decided based on whether you report your plan for the dissertation or not.

SOC500E1 - 0200

社会学研究 1

ジョナサン・ブラウン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. Read texts critically and analyze the varied situations that motivate writers, the choices that writers make, and the effects of those choices on readers;
2. Analyze how writers employ content, structure, style, tone, and conventions appropriate to the demands of a particular audience, purpose, context, or culture;
3. Write persuasive arguments that articulate a clear, thoughtful position, deploy support and evidence appropriate to audience and purpose, and consider counterclaims and multiple points of view, including international and intercultural perspectives;
4. Respond constructively to drafts-in-progress, applying rhetorical concepts to revisions of your own and peers' writing;
5. Analyze multiple modes of communication and the ways in which a wide range of rhetorical elements (both written and visual) and cultural elements operate in the act of persuasion; and
6. Evaluate sources and integrate the ideas of others into your own writing (through paraphrase, summary, analysis, and evaluation).

【到達目標】

- Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- Reflecting and analyzing ideas.
- Responding to other's ideas.
- Reading critically.
- Understanding the components of an argument.
- Understanding the structure of an argument.
- Reasoning for or against a claim.
- Presenting ideas from external sources.
- Synthesizing multiple sources.
- Formulating and presenting an original argument.
- Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's *On Writing Well*). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Self-introductions	<ul style="list-style-type: none"> • Syllabus and course explanation • General Essay Structure • Rd. Jackie Robinson's <i>Free Minds and Hearts at Work</i> • <i>Free Minds and Hearts at Work</i> discussion • Draft 1
第 2 回	Summary & Response	<ul style="list-style-type: none"> • How to write a summary and response • Peer review - What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing? • Rd. Zinsser Chs. 1-2 • Draft 2
第 3 回	Summary & Response continued	<ul style="list-style-type: none"> • Discuss Zinsser Chs. 1-2 • Comma usage • Summary & Response Final Draft • Rd. Zinsser Chs. 3-4

第 4 回	Critique Essay	<ul style="list-style-type: none">• Discuss Zinsser Chs. 3-4• Cutting clutter• Rd. Kaplan's Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education• Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric• Introduce your article (summary and response)	<ol style="list-style-type: none">4. Respond constructively to drafts-in-progress, applying rhetorical concepts to revisions of your own and peers' writing;5. Analyze multiple modes of communication and the ways in which a wide range of rhetorical elements (both written and visual) and cultural elements operate in the act of persuasion; and6. Evaluate sources and integrate the ideas of others into your own writing (through paraphrase, summary, analysis, and evaluation).
第 5 回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none">• What is a critique and how to write one• Discuss Kaplan• When to use passive/active voice• Rd. Zinsser Chs. 5-7• Draft 1	
第 6 回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none">• Discuss Zinsser Chs. 5-7• Citing sources (APA format) • Logos, Pathos, Ethos• Draft 2	
第 7 回	Research Paper	<ul style="list-style-type: none">• Logical fallacies• Final draft• Logical fallacies continued• Organization of a research paper• Rd. Zinsser Chs. 8-9• Synthesizing sources• Discuss Zinsser Chs. 8-9• Draft 1• Peer Review	
第 8 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none">• Draft 2	
第 9 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none">• Peer Review	
第 10 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none">• Final Draft• Prepare presentations	
第 11 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none">• Prepare presentations• Give presentations	
第 12 回	Final Presentation		
第 13 回	Final Presentation		
第 14 回	Final Presentation		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

On Writing Well: The Classic Guide to Writing Nonfiction by William Zinsser

ISBN: 9780060891541

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Summary & Response Essay: 20% Critique Essay: 25%

Research Essay: 25%

Poster Presentation: 20%

Class Discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

No changes.

【学生が準備すべき機器他】

Computer

Webcam

Internet connection

【その他の重要事項】

This course will be conducted entirely in English.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

英語学、言語学

<研究テーマ>

作文、修辞学、対照分析、談話分析

<主要研究業績>

In defense of Contrastive Rhetoric (2020). JALT2020 Conference. 学会発表

Using Rhetorical Structure Theory for contrastive analysis at the micro and macro levels of discourse (2019). 博士論文

Using Rhetorical Structure Theory for contrastive purposes: A pilot study (2018). OnCUE Journal, 11(1), 3-24. 論文

【Outline (in English)】

1. Read texts critically and analyze the varied situations that motivate writers, the choices that writers make, and the effects of those choices on readers;
2. Analyze how writers employ content, structure, style, tone, and conventions appropriate to the demands of a particular audience, purpose, context, or culture;
3. Write persuasive arguments that articulate a clear, thoughtful position, deploy support and evidence appropriate to audience and purpose, and consider counterclaims and multiple points of view, including international and intercultural perspectives;

SOC500E1 - 0201

社会学研究2

仁平 典宏

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究5」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフォーコーの言説分析から、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。

本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはワークも活用しながら理解を深めていきたい。

なお受講者は言説研究の経験の有無を問わない。

【到達目標】

・言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解できるようになる

・それぞれの方法には、どのような前提と課題があるのか理解できるようになる

・KH コーダーを用いた計量テキスト分析の基礎的操作ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

・コロナの感染が抑えられている場合は対面で行うが、そうでない場合は、Zoom を利用しオンラインで行う。Zoom での授業実施となった場合には、学習支援システムでアドレスやログイン方法等を伝える。

・テーマごとの課題論文を提示するので事前に読んで、各自コメントペーパーを作成する。それに基づくディスカッションを行う。

・KH コーダーや R などのソフトウェアを用いたテキストマイニングの実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の趣旨と流れを説明する。
第 2 回	言説と構築主義	構築主義が社会学にもたらした意義について検討する。
第 3 回	方法論的構築主義の展開と困難	方法論的構築主義の到達点と隘路について検討する。
第 4 回	言説と「実態」——統計の位置づけについて	言説研究において「実態」の位置はどこにあるのか、公式統計の処理の仕方を通じて検討する。
第 5 回	権力と言説	言説と権力の関係について検討する。
第 6 回	歴史と言説	歴史研究における言説の位置について検討する。
第 7 回	概念分析について 1	概念分析という手法について理解を深める。
第 8 回	概念分析について 2	概念分析という手法について理解を深める。
第 9 回	対話的構築主義をめぐって	対話的構築主義について、その内容と意義を検討する。
第 10 回	言説と因果推論	言説を扱いつつ、因果関係にいかに向か、関連する論文を読んで検討する。
第 11 回	計量テキスト分析のロジックと方法	計量テキスト分析に関する論文を通じて、その特徴について検討する。
第 12 回	計量テキスト分析の実際 1	KH コーダーや R の使い方について実習する。
第 13 回	計量テキスト分析の実際 2	KH コーダーや R を実際に使って、分析を試みる。
第 14 回	総括討論	総括討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

7月半ばまでに、下記の Dropbox で文献情報を共有します。事前に読んで上、授業当日までにフォルダ内にある購読票にコメントのメモを記入してください。それに基づいてディスカッションを行います。

https://www.dropbox.com/sh/vyin8n87d86ekb0/AAA5ZWf365wIiG4W_YrA9NBta?dl=0

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

7月半ばまでに、下記の Dropbox で文献情報を共有します。

https://www.dropbox.com/sh/vyin8n87d86ekb0/AAA5ZWf365wIiG4W_YrA9NBta?dl=0

【参考書】

スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』（マルジュ社）

ベスト, J. 『社会問題とは何か—なぜ、どのように生じ、なくなるのか?』（筑摩書房）

佐藤俊樹・友枝敏雄編 『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』（東信堂）

中河伸俊・赤川学編 『方法としての構築主義』（勁草書房）

酒井泰斗他編 『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』（ナカニシヤ出版）

樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第 2 版】』（ナカニシヤ出版）

仁平典宏 『「ボランティア」の誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（名古屋大学出版会）

など

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ワークにおいてはパソコンを使用する。KH コーダーを用いる上での利便上、Windows の PC をお勧めするが必須ではない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学（市民社会論、福祉社会学、教育社会学）

<研究テーマ>

日本型生活保障システムの再編下における社会の構造変容と帰結について、セクター間関係、及び、サブシステム間関係に注目して研究している。

<主要研究業績>

『「ボランティア」の誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（名古屋大学出版会、2011 年）

『教育学年報 11 教育研究の新篇章』（共編著、世織書房、2019 年）

『平成史【完全版】』（共著、河出書房新社、2019 年）

『市民社会論—理論と実証の最前線』（共著、法律文化社、2017 年）

【Outline (in English)】

【Course outline】

While there are many studies in sociology that use discourse and textual data, the methodologies/theories they rely on range from constructivist and Foucauldian discourse analysis to text mining using natural language processing. In this context, the novelty of the findings as well as the validity of the analytical procedures and the ontological and epistemological assumptions about the discourse/society relationship are sometimes severely questioned.

This course aims to provide students with a basic perspective on the different methodological positions and assumptions that are required for the study of discourse. We will deepen our understanding by reading and discussing the basic literature, and partly by using work.

No prior experience in discourse research is required.

【Learning Objectives】

The goals of this course are as follows:

- To understand the several methodological positions involved in the sociological analysis of discourse.

- To understand the assumptions and issues involved in each method.

- To understand how to conduct a basic level of sociological quantitative text analysis using KH coder.

【Learning activities outside of classroom】

By mid-July, we will share literature information in the Dropbox below. (https://www.dropbox.com/sh/vyin8n87d86ekb0/AAA5ZWf365wIiG4W_YrA9NBta?dl=0)

Please read it in advance and write notes of your comments on the subscription form in the folder by the day of class. Discussion will be based on them.

Your required study time is about two hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on class participation and contribution.

SOC500E1 - 0202

社会学研究 3

水島 久光

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究 6」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学的探究を行う上で、必要な資料の探索はどのように行うのか。あるいは逆に資料との出会いからどのように社会学的な問いを立ち上げるのか。アーカイブや資料施設を利用した実践的な授業を行います。

【到達目標】

履修者は、アーカイブや資料施設を利用し、実際に問いを立て、分析実習を行い、小論文を作成します。今期は「アジア太平洋戦争」をテーマに、資料間の関連性と、メディア表現の課題を考えることにより、エビデンスに基づく論述スキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は対面形式で実施する。

<前半>

8月1日（3、4限）アーカイブ研究と「戦争」（講義）

8月2日（3～5限）放送アーカイブと映像分析、研究テーマの設定（講義＋演習）

8月3日（3～5限）戦争資料館と一次資料の保全、フィールドワーク（講義＋演習）

<後半>

8月10日（3～5限）中間報告とディスカッション（演習）

8月12日（3～5限）最終報告と「戦争」研究の今後（演習＋講義）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アーカイブ研究と「戦争」（1）	社会学研究とアーカイブの関係／デジタルアーカイブの発展史
第2回	アーカイブ研究と「戦争」（2）	アジア太平洋戦争に関する資料の保全・継承の課題
第3回	放送アーカイブについて	NHK アーカイブス、放送ライブラリーほかの施設利用について。
第4回	映像分析の方法	どのように映像に向き合うのか、映像文法と意味解釈。
第5回	研究テーマの設定	核となる映像の選択、研究計画の立案
第6回	戦争関連資料の現状	現状と課題サマリー。
第7回	都内（近郊）資料館のフィールドリサーチ（1）	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第8回	都内（近郊）資料館のフィールドリサーチ（2）	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第9回	中間報告（1）	問題設定、資料分析の報告。
第10回	中間報告（2）	問題設定、資料分析の報告。
第11回	改善に関するディスカッション	追加調査の計画。
第12回	最終報告（1）	得られた知見は何かについて報告。
第13回	最終報告（2）	得られた知見は何かについて報告。
第14回	まとめ講義	戦争の歴史をいかに継承していくか、討議。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各回の授業時間内では、十分な資料の収集、フィールドリサーチ（訪問）、分析・検討はできません。次回の授業日までに到達すべきラインを示しますので、それを目指して準備を行ってください。

【テキスト（教科書）】

水島久光『戦争をいかに語り継ぐか：「映像」と「証言」から考える戦後史』（NHK 出版、2020）

【参考書】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』（法律文化社、2020）

福岡良明『戦後日本、記憶の力学』（作品社、2020）

米倉律『「八月ジャーナリズム」と戦後日本』（花伝社、2021）

桜井均『テレビは戦争をどう描いてきたか』（岩波書店、2005）

【成績評価の方法と基準】

中間報告（4日目：30%）、最終報告（5日目：30%）、研究計画（2日目：10%）、訪問メモ（3日目：10%）の提出（計80%）＋ディスカッションの参加・内容（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

映像視聴可能な PC を各自用意のこと。

【その他の重要事項】

必要に応じて ZOOM で連絡をとります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学、情報記号論、アーカイブ研究<研究テーマ>メディアと公共性、表現と倫理<主要研究業績>『戦争をいかに語り継ぐか』（NHK 出版、2020）『新しい生活』とはなにか』（書籍工房早山、2021）、『メディア分光器』（東海教育研究所、2017）など著書多数。

【Outline (in English)】

How to search for the materials you need to do sociological research? How to raise sociological questions from the encounter with materials? Practical lessons using archives and materials facilities.

Learning Goal : Students are required to use archives and resource facilities, formulate actual questions, conduct analytical exercises and write essays. This term, with the theme of the 'Asian Pacific War', the aim is to develop evidence-based argumentation skills by considering the relevance between sources and the challenges of media representation.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. It is not possible to collect sufficient material, conduct field research (visits), analyse and review in each class period. Each lesson will indicate what you need to prepare for the next lesson, so please aim to prepare accordingly.

Grading Criteria : Evaluation is based on submission of interim report (30%), final report (30%), research plan (10%) and visit notes (10%) (80% in total) + participation and content of discussions (20%).

SOC500E1 - 0203

社会調査法 1

武田 俊輔

備考（履修条件等）：修士課程「調査研究法」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究の実際の場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析する思考法を習得する。まずは社会学の調査研究の古典、近年の優れた研究を講読し、また担当者自身の研究のデータ収集・分析のプロセスを見ていくことを通して、それらの問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学ぶ。さらに受講者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】

・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインあるいは対面（ハイブリッド）での演習の形式を採用。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1：社会学と社会調査	社会学における社会調査の歴史と発展について学ぶ。
第 2 回	総論 2：社会調査の諸類型	社会調査のさまざまな類型について学ぶ。
第 3 回	総論 3：社会調査の倫理と真正性	社会調査における調査倫理、また調査における確からしさについて学ぶ。
第 4 回	フィールドワークの光と影 1：ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む	ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』とその解説を手がかりにフィールドワークについて学ぶ。
第 5 回	フィールドワークの光と影 2：武田俊輔『コモンズとしての都市祭礼』とその解説を手がかりにフィールドワークについて学ぶ。	武田俊輔『コモンズとしての都市祭礼』とその解説を手がかりにフィールドワークについて学ぶ。
第 6 回	フィールドワークの光と影 3：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおけるフィールドワーク調査の活用について討議する。
第 7 回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 1：谷富夫『民族関係の都市社会学』を読む	谷富夫『民族関係の都市社会学』を手がかりに、ライフヒストリー研究について学ぶ。
第 8 回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 2：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおけるライフヒストリー研究の活用について討議する。
第 9 回	テキストデータの分析 1：赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』を読む	赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』を手がかりに、テキストデータの言説分析について学ぶ。
第 10 回	テキストデータの分析 2：船戸・武田他『テレビの中の農業・農村』「戦後ラジオ・テレビ放送における『農村』表象の構築プロセス」におけるデータ収集と分析	船戸・武田他『テレビの中の農業・農村』「戦後ラジオ・テレビ放送における『農村』表象の構築プロセス」を手がかりに、映像資料の分析について学ぶ。
第 11 回	テキストデータの分析 3：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおけるテキストデータや映像資料の活用について討議する。
第 12 回	社会関係を計量する 1：フィッシャー『友人のあいだで暮らす』を読む	フィッシャー『友人のあいだで暮らす』を手がかりに、量的データの分析について学ぶ。
第 13 回	社会関係を計量する 2：受講者の研究への応用に関する討論	受講生各自の研究テーマにおける量的データの分析とその活用について討議する。

第 14 回 各自の問題関心に基づく調査デザインの最終発表と相互討論

受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したりリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したりリサーチデザインの報告レジュメを作成すること。

【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載。

【参考書】

各回ごとで授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30%、報告の内容評価 30%、筆記試験 40%。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることを求める。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学生支援システムへの PC によるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

修士課程「調査研究法」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>文化社会学・地域社会学・都市社会学・メディア論

<主要研究業績>武田俊輔,2020,『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. They will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics, recent excellent research, and the research of the instructor. In addition, They will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class presentation : 30%, in class contribution: 30%

SOC500E1 - 0204

社会調査法2

多喜 弘文

備考（履修条件等）：修士課程「統計分析法」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。受講生の希望と社会状況によっては対面授業を複数回設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線形代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第6回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュエット&ノーキ、1990、『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40%）とレポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会階層論・教育社会学・比較社会学
<研究テーマ>教育と不平等の比較社会学
<主要研究業績>

『学校教育と不平等の比較社会学』ミネルヴァ書房（2020年、単著）。

中村高康・三輪哲・石田浩編『少子高齢社会の階層構造 I 人生初期の階層構造』東京大学出版会（2021年、章分担執筆）。

The Economics of Marginalized Youth: Not in Education, Employment, or Training Around the World, Routledge（2022年、共編著）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports (60%).

SOC500E1 - 0205

社会調査法3

田嶋 淳子

備考（履修条件等）：修士課程「質的資料分析法」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップします。

【参考書】

1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣
2. 佐藤郁哉,2008『質的データ分析法—理論・方法・実践』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】

非該当

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学

<研究テーマ>中国系移住者コミュニティの比較社会学的研究、移住第2世代問題

<主要研究業績> 2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店、

2018『中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容』栗田和明編『移民と移住』昭和堂。

2021『イタリヤにおける中国系移住者家族の変遷』『移民政策研究』第13号,66-78 ページ。

【Outline (in English)】**Course Outline**

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.

First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.

Learning Objectives

Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC500E1 - 0206

社会学原典研究 1

徳安 彰

備考（履修条件等）：修士課程「社会学原典講読」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教社会学の新しい古典であるホセ・カサノヴァの『近代世界の公共宗教』をテキストにして、原典講読を行う。原典の講読をとおして、宗教の社会的な捉え方と現代社会における宗教のあり方についての理解を深める。

【到達目標】

原典講読を通して、社会的な宗教の捉え方の基礎を理解できるようになる。それと同時に、近現代社会における宗教のあり方について、みずから社会的に考え、理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者が、原典テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。報告にもとづいて、受講者全員で質疑応答や討議を行う。また必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	宗教社会学と世俗化論についての概説
第2回	講読（1）	第1章前半
第3回	講読（2）	第1章後半
第4回	講読（3）	第2章前半
第5回	講読（4）	第2章後半
第6回	講読（5）	第3章
第7回	講読（6）	第4章
第8回	講読（7）	第5章
第9回	講読（8）	第6章
第10回	講読（9）	第7章
第11回	講読（10）	第8章前半
第12回	講読（11）	第8章後半
第13回	まとめ（1）	全員による総括的討議
第14回	まとめ（2）	全員による総括的討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ホセ・カサノヴァ『近代世界の公共宗教』ちくま学芸文庫（2021年）

受講希望者は自分でテキストを購入しておくこと。

【参考書】

とくに指定はせず、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の報告（70%）：テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質によって評価する。

授業への貢献（30%）：各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないのでとくになし

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】

We read "Public Religions in the Modern World" (by José Casanova) chapter by chapter. The goals of this course are to acquire the sociological understanding of religion and to analyze the position and situation of religion(s) in the modern society. Expected study time for each class is more than four hours. The overall grade will be decided based on presentation in each class (70%) and in class contribution (30%).

